

学内広報

for communication across the UT



特集：卒業生ネットワーク形成の取り組み —第2ステージへ—
東京大学の教育～「大学教育の達成度調査」からみえてくるもの

2011.6.22

No.1413

卒業生ネットワーク形成の 取り組み —第2ステージへ—

「東大アラムナイFacebook」オープン！！
<http://www.facebook.com/Todai.Alumni/>

「東大アラムナイ」ファンページ概要



イベントの写真なども共有します。

この「ウォール」に卒業生からさまざまなお知らせが投稿されます。コメントをお寄せいただいたり、「いいね！」を押してあなたの友人に知らせることができます。

本ページに「いいね！」してくれた人の数はここに表示されます。

Facebookとは？

2004年にハーバード大学で生まれたSNS。Facebookを使って、写真やビデオをアップロードしたり、自分が今どこにいるかを近況報告しあうことで、人とのつながりを深めています。実名での登録を基本としており、世界中で5億人の人が使い、そのうち半分の方は毎日ログインしているといわれています。(Facebookホームページより・一部改訂)
 さまざまな企業・大学がファンページを持ち、情報を発信しています。



※東京大学公式SNSサービスも開始しました！

卒業生室は新たな活動を展開しました。情報収集と交流の場となる「Facebook」を開設。また「ホームカミングデー」は記念すべき第10回目となり、若手卒業生たちが新たなイベントを企画中。2011年の活動をお知らせします。

6月1日、卒業生室は卒業生のネットワーク形成のため、SNSのひとつ「Facebook」を使った活動を開始。世界中で活躍する卒業生同士が知的挑戦体験と英知を共有するための場を提供します。アカウントのプレ開設日から1週間で830名の方が

「いいね！」をクリックしてくださいました。今後は東大卒業生同士で交流ができるクローズの「東大アラムナイグループページ」も作成。「卒業生活動の告知」「活動報告」「勉強会の告知」など自由にご活用下さい。

寄せられたコメントの例

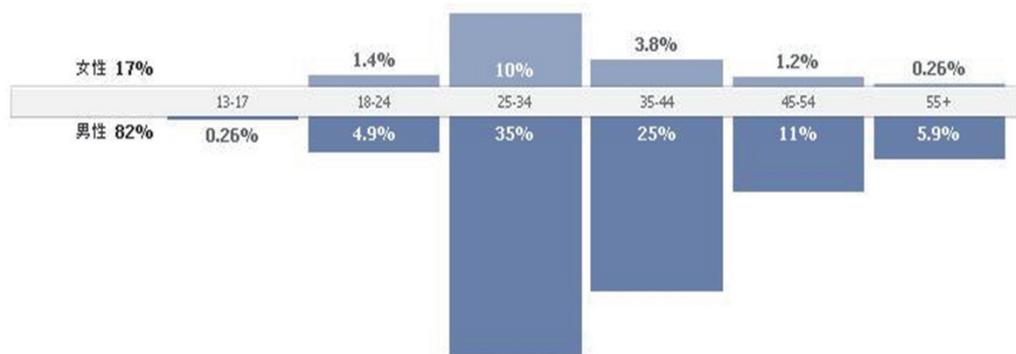
数年前にホームカミングデーに行きましたが結構盛況でした。(学部卒業生)

もう、ホームカミングデーの季節ですか？楽しみにしています。(大学院修了者)

東大を卒業して初めて大学とのつながりを感じました。(外国人同窓生)

東大アラムナイ ユーザー属性

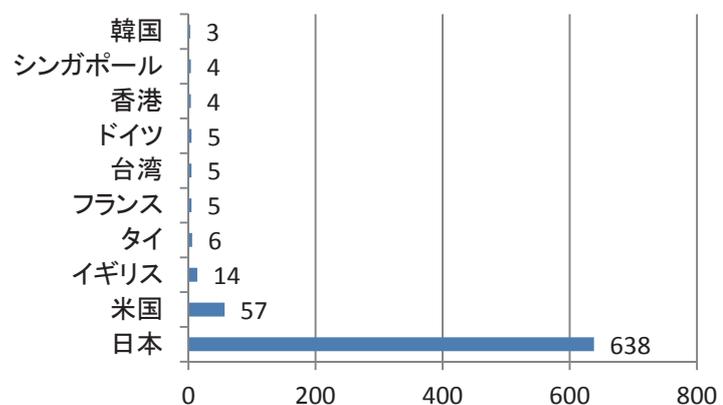
性別・年齢



言語

日本語	538
英語(米国)	181
英語(イギリス)	38
中国語(台湾)	5
ドイツ語	3
韓国語	3
簡体中国語(中国)	2
スペイン語	1
イタリア語	1
タイ語	1
マレー語	1
フランス語(フランス)	1

国別上位10カ国



第10回 東京大学 ホームカミングデー

それぞれの「東京大学」を見つめなおす一日



入場無料

事前申込
不要

※一部イベントには事前にお申し込みが必要な
ものがございます。

日時 2011年10月29日(土) 10:00～

場所 東京大学 本郷キャンパス および 駒場キャンパス

受付 本郷キャンパス…正門、赤門、安田講堂 / 駒場キャンパス…正門
※当日の詳しいプログラムなどの資料をお渡ししますので必ずお寄りください。

今年、第10回目を迎えるホームカミングデーは、10月29日(土)に開催いたします。特別フォーラムを始め、今年は新たな目玉企画も予定しています。卒業生を母校にお迎えするにあたり、各部局の皆さまと一緒に盛り上げていきたいと思っています。ご協力のほどよろしく申し上げます。

◆特別フォーラム

今年のキーワードは「世界」。グローバルに活躍する卒業生をお招きする予定です。ご期待ください。

◆UT Festival- University of Tokyo home coming day for young alumni

25～35歳の若手卒業生を主な対象として、新しいプログラムを企画中。飲食、講義、エンターテインメント、親子で参加するプログラムなど多彩です。お楽しみに。

◆International Alumni Forum

2011年には中国、韓国、パリ、台湾、ベトナムなど5つの海外同窓会が立ち上がりました。昨年初めて開催したイベントですが、今年も引き続き開催します。外国人卒業生へのアウトリーチ活動を拡大します。

◆その他イベント

決まり次第順次HPにアップします。

<http://www.alumni.u-tokyo.ac.jp/hcd/>

◆周年幹事募集(実行委員・幹事役募集)

卒業40周年、30周年、20周年、10周年のOB・OGのみなさまに、「周年幹事」をお願いさせていただいています。周年幹事としてホームカミングデーをPRし、同期生・ご家族などを誘い合ってキャンパスへご来場していただき、学生時代をともにした仲間と集まる同窓会を企画して、一人でも多くの方に、東京大学とその絆をなつかしく、そしてより身近に感じていただけるようお手伝いください。周年幹事の対象者は、下記のとおりです。

【卒業対象年】

学部卒業40周年 1971(昭和46)年卒業生
学部卒業30周年 1981(昭和56)年卒業生
学部卒業20周年 1991(平成3)年卒業生
学部卒業10周年 2001(平成13)年卒業生

お問い合わせ:卒業生課

03-5841-1216 / 内線21216



卒業生活動新機軸プロジェクト「TSII(TODAI Social Innovation Initiative)
— 7月のお知らせ —

◆第9回東大ワールドカフェ

既存の枠組み・世代を超えて、異業種仲間と交流し新しいネットワークを構築するチャンス。リピーターも増えています。

7月19日(火) 19:00~21:30
本郷キャンパス・経済学研究科学術交流棟・小島ホール
キーノートスピーカー:
郷治友孝氏(東大エッジキャピタル社長)
申し込み⇒ <http://tsii.todai-alumni.jp/twc/>

◆海外大学院留学説明会

海外大学院留学に関する情報提供、説明会等を開催するUT-OSAC(University of Tokyo, Overseas Study Advisory Community)をサポートしています。

7月30日(土)
第1部:10:00~11:30 第2部:11:45~13:00
本郷キャンパス・工学部2号館
詳細⇒ <http://tsii.todai-alumni.jp/volunteer/>

TODAI for Tomorrow(TFT)

「先輩とつながる」「同期とつながる」「東大とつながる」オンラインコミュニティ。
TFTに英語版の登録フォームができました。留学生、外国人OBのネットワーク構築にご利用ください。

詳細↓
http://www.alumni.u-tokyo.ac.jp/tft/index_e.html

英語入力
できます

「プレジデント・カウンスル」開催に伴う
欧州地域同窓生、総長懇談会

「プレジデント・カウンスル」は、限られた人数の世界的に卓越した方々と東京大学総長との討議を通じて東京大学のとるべき方向に対してガイダンスと支援をいただくために設置されました。毎年世界各地で開催します。

6月2~3日にジュネーブで開催された第9回本会議に際しては、開催前に欧州在住の卒業生代表と懇談会を行い、多くの卒業生との意見交換の機会をもちました。ジュネーブ在住8名の他、デュッセルドルフ1名、フランクフルト1名、ベルギー1名、ロンドン2名、リヒテンシュタイン1名、フランス1名の計15名が集まり、各地の状況や東大の国際化について活発な意見交換が行われました。

特に「海外での日本人のプレゼンスが非常に小さくなった」「東大でも学生を外に出す制度の制定、帰国子女の能力を活かすための仕組み作りが必要」など海外から東大を見ている卒業生の声を聞く、貴重な時間となりました。ご協力ありがとうございました。



▲濱田純一総長
と江川雅子理事
(卒業生室長)

▼欧州在住の卒業生



▲欧州留学中の本学卒業生代表



▼欧州在住の卒業生

東京大学の教育

～「大学教育の達成度調査」からみえてくるもの

大学総合教育研究センター

はじめに

大学総合教育研究センターでは、教育企画室の委託を受け、2008年度から卒業生に対する大学教育の達成度に関する調査を実施している。2009年度の調査は、2010年3月に卒業生2,983名を対象として実施され、回収率は約60%であった。調査にご協力をいただいた各学部と学生みなさんに御礼を申し上げる。また、調査の実施にあたっては調査委員会を組織した。関係者の皆様にも御礼を申し上げたい。

本調査は、東京大学の教育・研究環境の向上を目的として、学生に、東京大学の学習環境、学習経験や大学生活についてたずねるものである。調査結果は、大学総合教育研究センターで分析し、その結果を東京大学の自己評価さらに教育研究の改善に活用することとなっている。本報告書は、このうち、全体の速報を示すものであり、今後よりいっそうの分析を続け報告していく予定である。

今回は2回目の試みであり、回収率は上昇しているものの、依然として学部によってかなりのばらつきがあり、全体の傾向としてみるためには留意が必要である。本報告書に関しても、忌憚のないご意見をいただければ幸いである。また、引き続き各学部と学生諸君の調査への協力をお願いしたい。

2011年5月

大学総合教育研究センター長

吉見俊哉

調査実施組織（2009年度）

大瀧友里奈 大学総合教育研究センター・特任助教 ○大多和直樹 大学総合教育研究センター・助教
 岡本 和夫 大学総合教育研究センター長 ○小林 雅之 大学総合教育研究センター・教授
 藤原 毅夫 大学総合教育研究センター・特任教授 山本 泰 大学院総合文化研究科・教授
 ○劉 文君 大学総合教育研究センター・特任研究員 (五十音順 ○は、本報告書執筆者)

実施方法

- アンケート送付日 : 2010年3月25日(卒業式の日)
- 卒業生数 : 2,983票
- 回答数 : 1,781票
- 回収率 : 59.7%(回収率は、回収数/卒業生数で計算した)

※学部(各学科)が、卒業式後の書類配付時に調査票を配付し、以下のAおよびBの方法で回答・回収した。

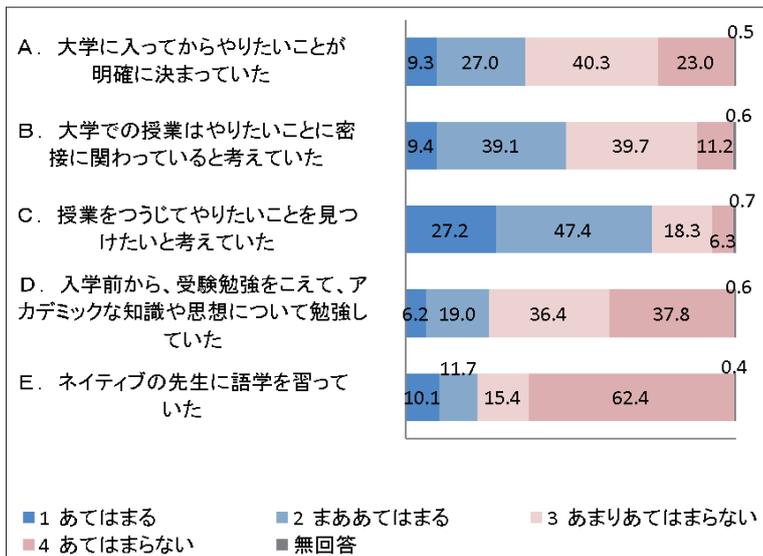
- A. 自記による回答後、各学部が回収(法、文、理、農、経済、薬、工)
- B. 自記による回答後、大学総合教育研究センターに郵送(医、教育、教養)

「入学時にやりたいことが明確に決まっていた」：約 40%

「入学前からアカデミックな知識・思想について勉強していた」は約 4 分の 1

Q. 入学時の様子についてお聞きします。

つぎのことは、どの程度あてはまりますか。

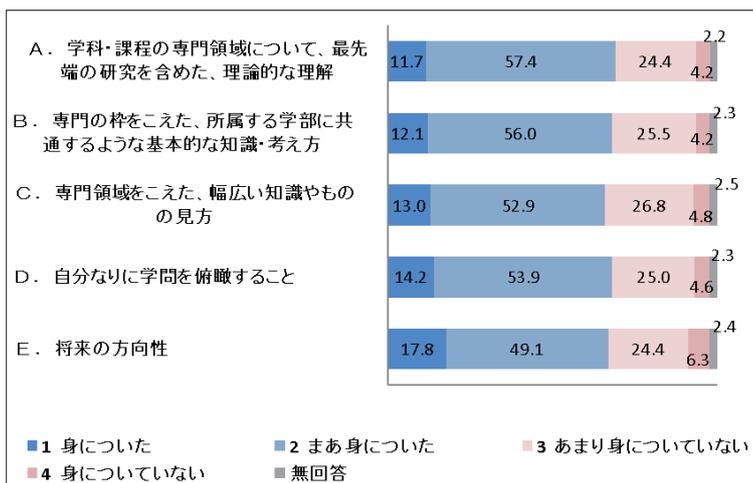


「A. 大学に入ってからやりたいことが明確に決まっていた」に「あてはまる」「まああてはまる」と回答した学生は、36.3%となる。過半数が明確に決まっていないことになるが、そのかわりに、授業への関心は高く「C. 授業をつうじてやりたいことを見つけたいと考えていた」という学生は「あてはまる」と「まああてはまる」をあわせると74.6%にのぼる。

一方、入学前の準備(レディネス)を見てみると「D. 入学前から…アカデミックな知識や思想について勉強していた」は、25.2%にとどまる。

本学の教育をつうじて、知識や考え方は「まあ身についた」まで含めれば約 70%だが、「身についた」のみでは 20%以下にすぎない

Q. あなたは、東京大学の教育をつうじて、以下のような点を身につけたと思いますか。

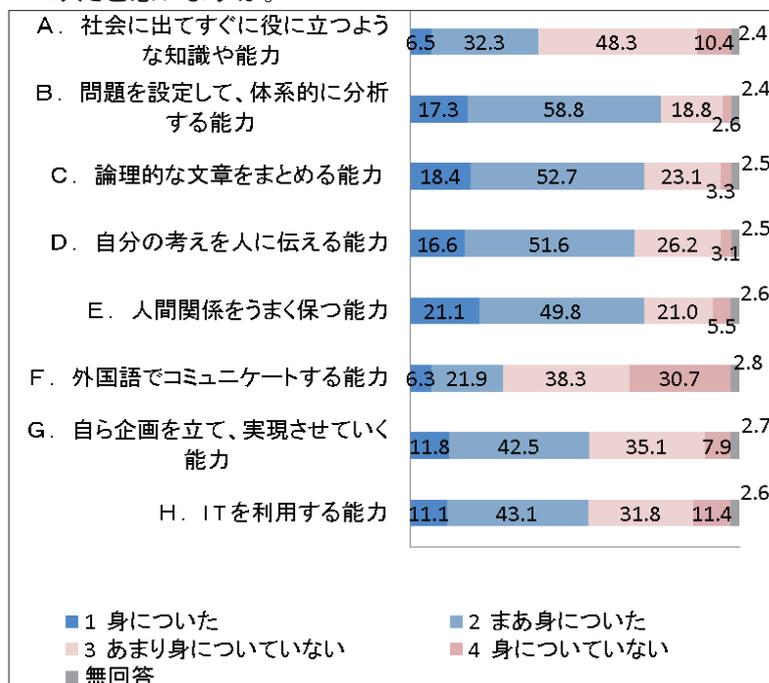


「A. 専門領域の理解」、「B. 学部共通の基本的知識・考え方」、「C. 幅広い知識や見方」、そして、「D. 学問の俯瞰」の各項目について、本学の教育をつうじて、「身についた」+「まあ身についた」と回答した学生は70%弱にのぼった。ただし、各項目において「身についた」だけをみると、15%以下の値にとどまっている。「身についた」と自信をもって回答できる学生は少ないということだろう。

「E. 将来の方向性」についてもほぼ同じ傾向にあるが、「身についた」が17.8%となり、上記4項目よりも若干高くなっている。

汎用性の高い能力は4分の3の学生が身につけているが 実用性の高い能力はあまり身につけていないと回答

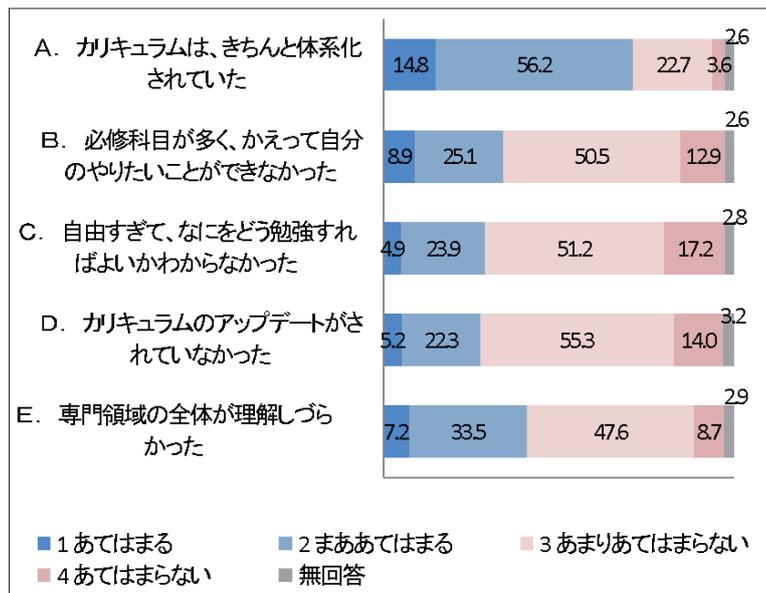
Q. あなたは、大学時代をつうじて、以下のような点を身につけたと思いますか。



大学時代をつうじて、身につけた能力としてあげられているのは、「B. 問題を設定して体系的に分析する能力」「C. 論理的な文章をまとめる能力」「D. 自分の考えを人に伝える能力」「E. 人間関係をうまく保つ能力」で、いずれも「身についた」と「まあ身についた」をあわせて70%前後の学生が身についたとしている。これに対して、あまり「身についた」と評価していないのは、「F. 外国語でコミュニケーションする能力」で、身についたとする学生は28.2%に過ぎず、「A. 社会に出てすぐに役に立つような知識や能力」も38.8%の学生が身についたとしているに過ぎない。さらに、「G. 自ら企画を立て、実現させていく能力」「H. ITを利用する能力」についても、身についたと回答している学生は、54.3%と54.2%となっている。

カリキュラムについては、肯定的な回答が多いが、約3分の1の学生は評価していない。特に「専門領域の全体が理解しづらかった」という学生は約40%

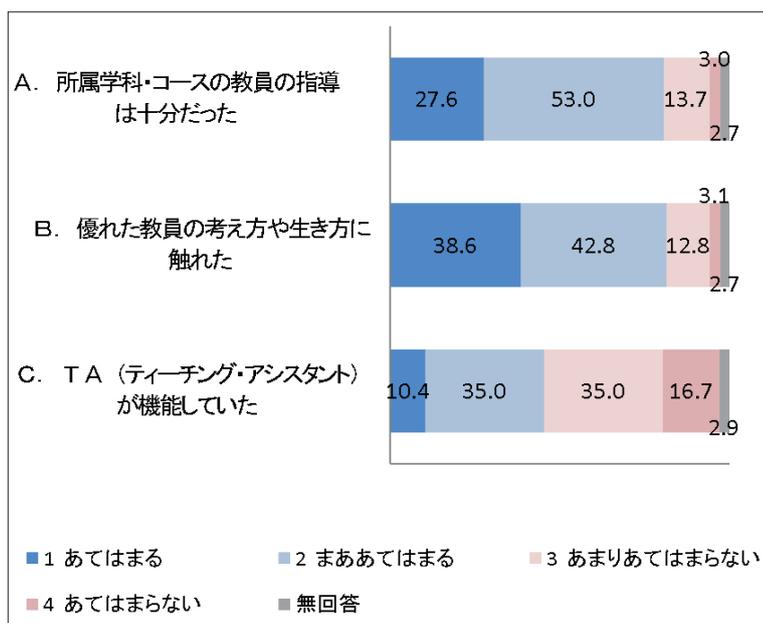
Q. 専門学部・学科等のカリキュラムについてお聞きします。



専門学部・学科のカリキュラムについて、「A. きちんと体系化されていた」と評価する学生は、「あてはまる」と「まああてはまる」をあわせて71.0%で、「B. 必修科目が多く、かえって自分のやりたいことができなかった」「C. 自由すぎて、なにをどう勉強すればよいかわからなかった」「D. カリキュラムのアップデートがされていなかった」という否定的な項目について、「あてはまらない」と「あまりあてはまらない」という回答は63.4%、68.4%、69.3%である。しかし、「E. 専門領域の全体が理解しづらかった」に「あてはまる」と「まああてはまる」という学生は40.7%とやや多くなっている。

「教員の指導は十分」「優れた教員の考え方・生き方に触れた」:80%にのぼる

Q. 教員や教育制度との関係についてお聞きします。

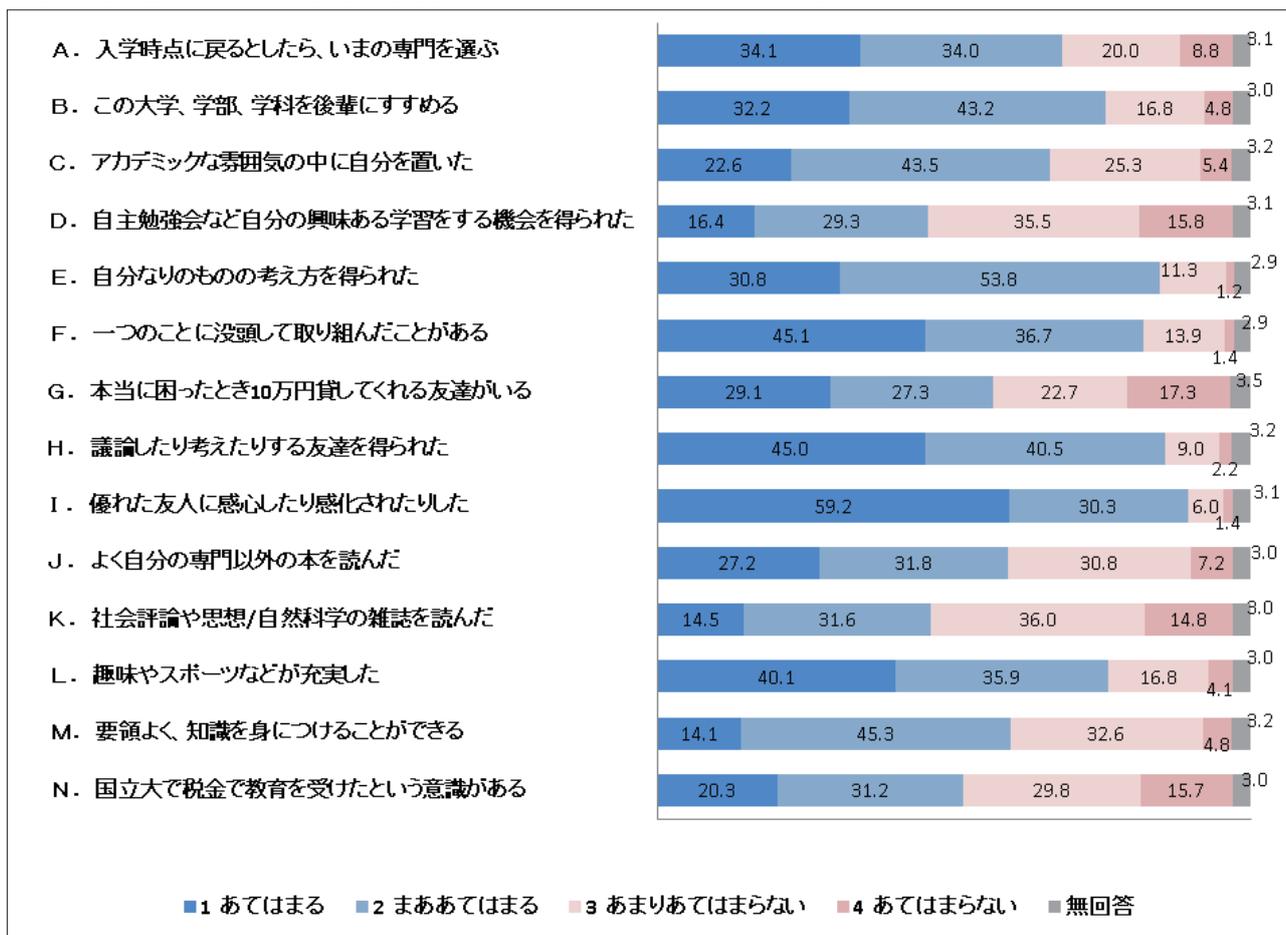


「A. 所属学科・コースの教員の指導は十分だった」に「あてはまる」+「まああてはまる」と回答した割合は80.6%にのぼる。また、「B. 優れた教員の考え方や生き方に触れた」についても同様に81.4%となっており、教員に対する学生の評価は高いとみてよい。

「C. TA (ティーチング・アシスタント) が機能していた」については、機能していると答えた学生は、45.4%であった。

「優れた友人に感心した」・「議論したり考えたりする友達を得た」・「自分なりのものの考え方を習得」：約 90%

Q. 大学時代を通じての経験を総合して、つぎのようなことはどの程度あてはまりますか。



学生が優れた友人と出会う経験が多いということが東京大学の学習環境の一つの特徴といえるだろう。本年度もこのことが浮き彫りとなった。「I. 優れた友人に感心したり感化されたり」といった経験をした者が「あてはまる」で 59.2% となり、「あてはまる」+「まああてはまる」では、実に 89.5% にのぼる。

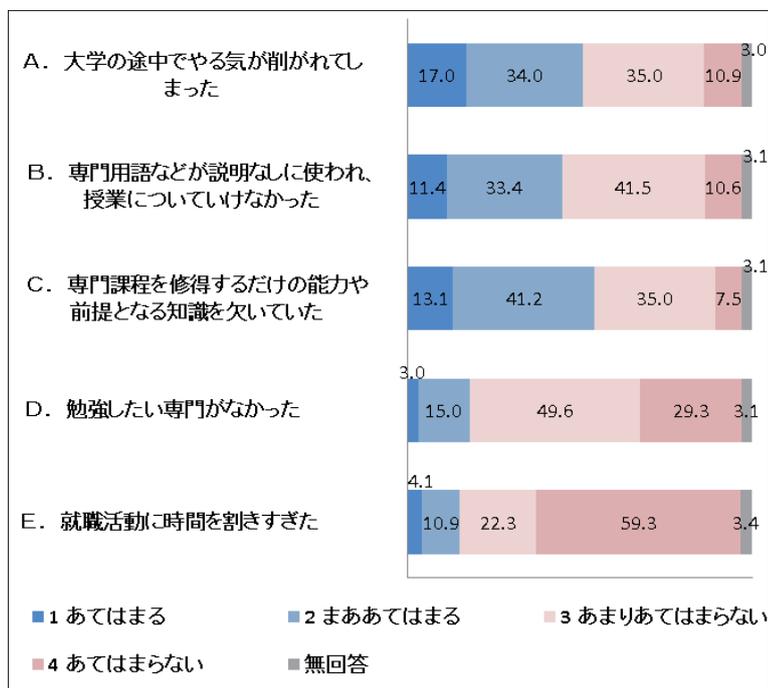
また、「H. 議論したり考えたりする友達」も「あてはまる」+「まああてはまる」をあわせると 85.5% となった。「G. 10万円貸してくれる友達」という項目は、困ったときに助けてもらえるという感覚をたずねたものであるが、56.4% となった。

このような環境のなかで、84.6% の学生が「E. 自分なりのものの考え方」を習得したと答え、また、「F. 一つのことについて没頭した」という経験も 81.8% にのぼるなど、豊かな学習経験という面でも高い数値がみられた。

大学時代の経験：約半数の学生が「大学の途中でやる気が削がれてしまった」

「就職活動に時間を割きすぎた」学生が 15%

Q. あなたは、大学時代につきのような経験がありましたか。



「A. 大学の途中でやる気が削がれてしまった」について、「あてはまる」と回答した学生は 17.0%、「まああてはまる」と合わせると、51.0%となり、肯定的な回答をした学生の割合が半分以上になる。

また、「B. 専門用語などが説明なしに使われ、授業についていけなかった」と「C. 専門課程を修得するだけの能力や前提となる知識を欠いていた」の二つの項目についての回答は、「あてはまる」で、それぞれ 11.4%、13.1%であり、「まああてはまる」とあわせると、それぞれ、44.8%、54.3%に達している。

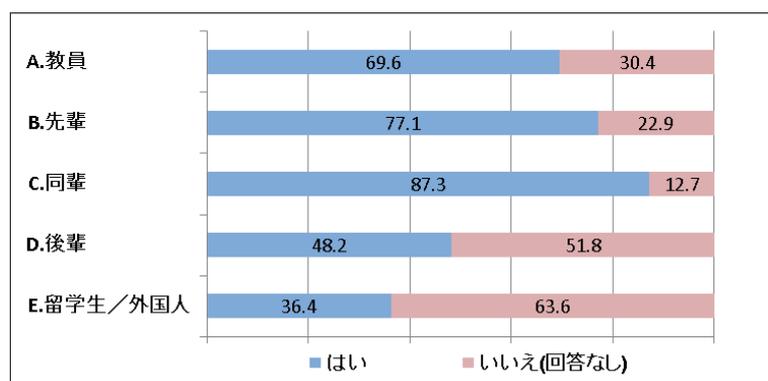
その一方、「D. 勉強したい専門がなかった」について、「あてはまる」との回答

はわずか 3.0%で、「まああてはまる」とあわせても、18.0%にとどまっている。また「E. 就職活動に時間を割きすぎた」について、「あてはまる」と回答した学生は 4.1%にすぎず、「まああてはまる」と合わせて、15.0%となっている。

教員との学問的交流は、約 70% の学生が体験

後輩とは半数以下にとどまる

Q. 次のような人と学問的な交流がありましたか。

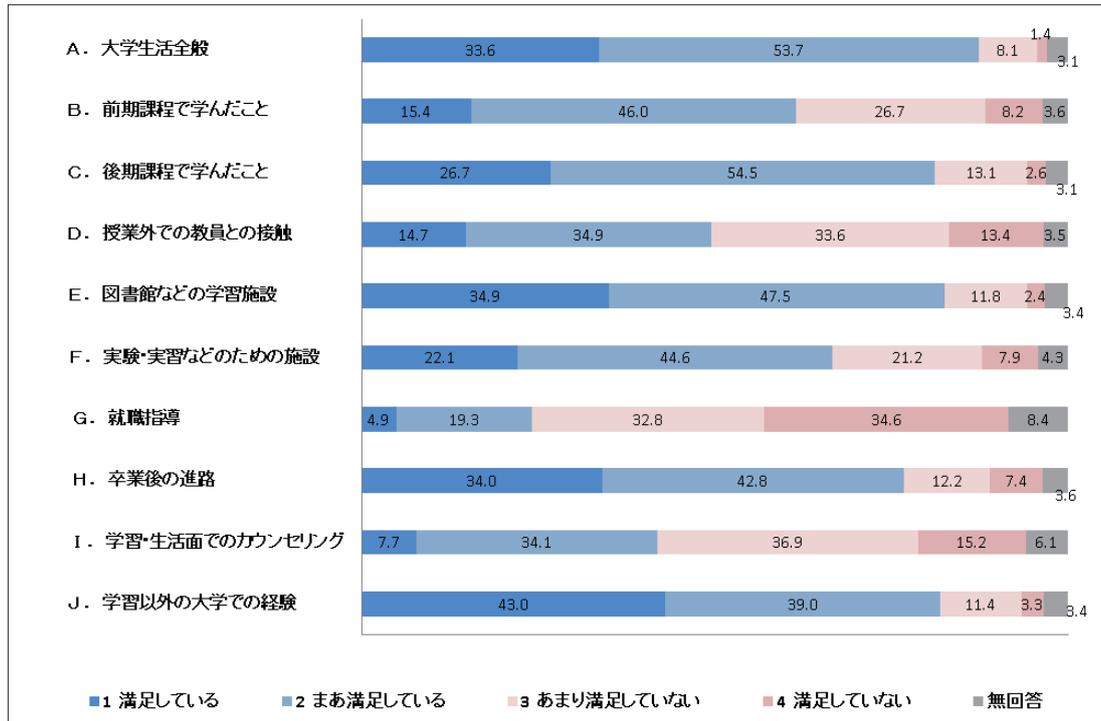


学問的な交流のあり方についてみていくと、69.6%の学生が教員との交流があったと答えている。教員よりも先輩との交流の方が 77.1%と若干高くなる。先輩との繋がりが機能していることがわかる。

同輩との学問的な交流機会では、87.3%の学生が交流があったと答えている。その一方、後輩とでは 48.2%にとどまる。また、留学生、外国人との学問的交流は、36.4%となっている。つまり、外国人と学問的な交流をする機会はそれほど整っていないとみるべきだろう。

**満足度：約90%が満足 前期課程より後期課程のほうが満足度が高い
就職指導への満足度は低いが、卒業後の進路についての満足度は高い**

Q. あなたの大学生生活を通じた満足度についてお聞きします。



「A. 大学生生活全般」について、「満足している」(33.6%)と「まあ満足している」(53.7%)と回答した学生の割合は87.3%に達している。教育に関しては、「B. 前期課程で学んだこと」と「C. 後期課程で学んだこと」の項目で、「満足している」+「まあ満足している」と回答した割合は、それぞれ61.4%、81.2%となっている。前期課程より後期課程の教育の方が満足度は高い。

「D. 授業外での教員との接触」について、「満足している」と回答する割合は14.7%で、「まあ満足している」(34.9%)とあわせて、49.6%となっており、A～Cにくらべてやや低い。「E. 図書館などの学習施設」と「F. 実験・実習などのための施設」に対する満足度は比較的に高く、「満足している」+「まあ満足している」と回答する割合は、それぞれ82.4%、66.7%となっている。

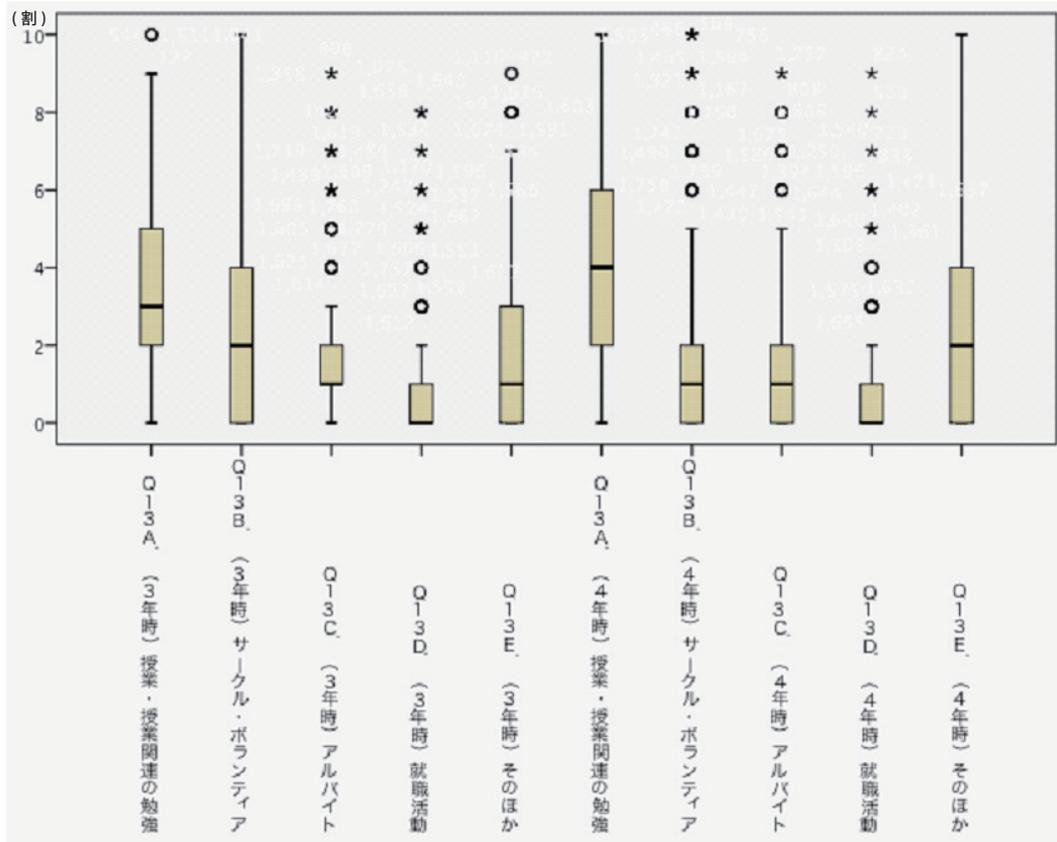
「G. 就職指導」に対して、「満足している」との回答はわずか4.9%で、「まあ満足している」(19.3%)とあわせて、24.2%にすぎない。しかし、逆に、「H. 卒業後の進路」には、「満足している」と回答した割合は34.0%、「まあ満足している」の割合は42.8%で、両者あわせると、76.8%に達している。しかし、この回答者の中には、卒業後、大学院に進学する者も含まれていることに留意すべきである。

「I. 学習・生活面でのカウンセリング」については、「満足している」との回答は7.7%で「まあ満足している」(34.1%)と、あわせて41.8%となっており、満足度が高いとは言いがたい。これに対して、「J. 学習以外の大学での経験」について、「満足している」(43.0%)と「まあ満足している」(39.0%)と回答した者の割合は、82.0%に達している。

時間配分：授業・授業関連の勉強に力を入れている

4年生でさらにその傾向は強まる

Q. あなたは、次のような項目に、時間をどのように配分していましたか（四年制課程のみ集計）。



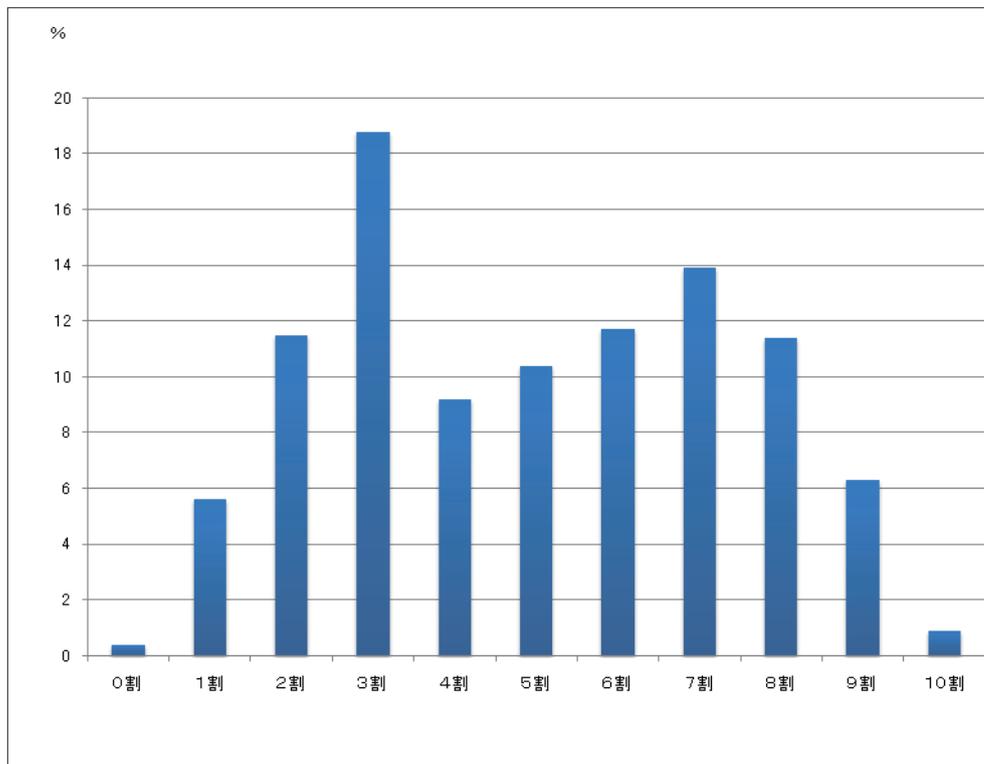
箱ひげ図：中央の太線は中央値、箱の中に50%が収まる（箱の上端が第1四分位点、下端が第3四分位点）。
○および*は外れ値。

授業、サークル、アルバイト、就職活動等にどのくらいの時間を割いたかを割合でたずねた質問である（3年時、4年時の各年時ごとにA～Eを合計すると10割になるように、各項目への時間配分を回答してもらった）。箱ひげ図をみると3年時においても4年時においても、「A. 授業・授業関連の勉強」に最も力を入れていることがわかる。平均をみると3年時には3.5割となるが、4年時には4.5割に増える。ただし、4年時には、分散もまた大きくなり、力を入れて勉強している学生とそこそこの学生の差が大きくなっている。

3年時にはサークル・ボランティア活動の比重も高い。3年時の図をみると、授業・勉強との「箱」の部分の重なりが比較的大きいことがわかる。それに対して4年時には、中央値が低下するとともに、勉強との間の「箱」の重なりが小さくなっていることがわかる。4年生では、勉強へのシフトが起きていることがみてとれる。

成績は、ばらついている

Q. あなたの成績についてお聞きします。「優」(A)は何割くらいありましたか。



(注) 無回答 (8.0%) を除く割合

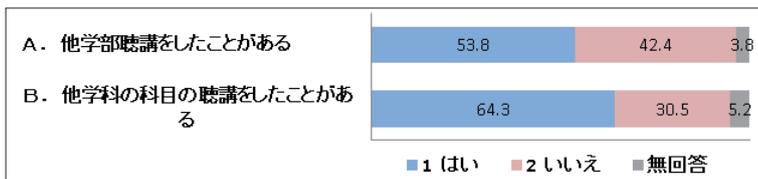
優の割合をみると、中央で山ができる正規分布状に分布しているというよりも、双峰型に分布しているとみることができる。3割と7割のところに山があり、4割のところが谷となっている。

なぜ2つの山になっているか興味深い、今後の検討課題である。

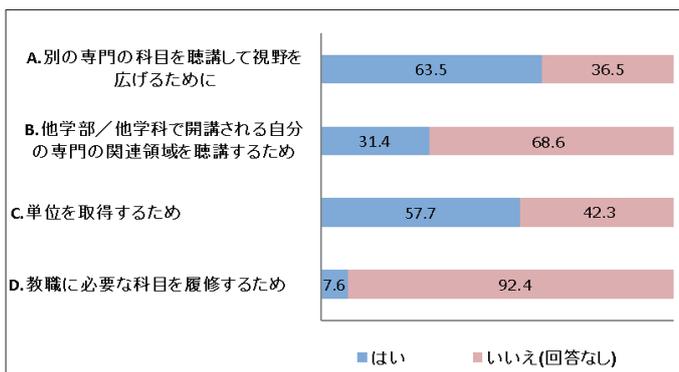
他学部聴講の経験者は過半数

視野を広げるための聴講が約 3 分の 2

Q. 他学部聴講についてお聞きします。



Q. どのような意図で聴講しましたか(他学部聴講をしている者のみ)。



他学部聴講の経験率は、53.8%と過半数に達している。同じ学部の他学科の科目の聴講経験は、これよりも10.5ポイントほど高く、64.3%となる。

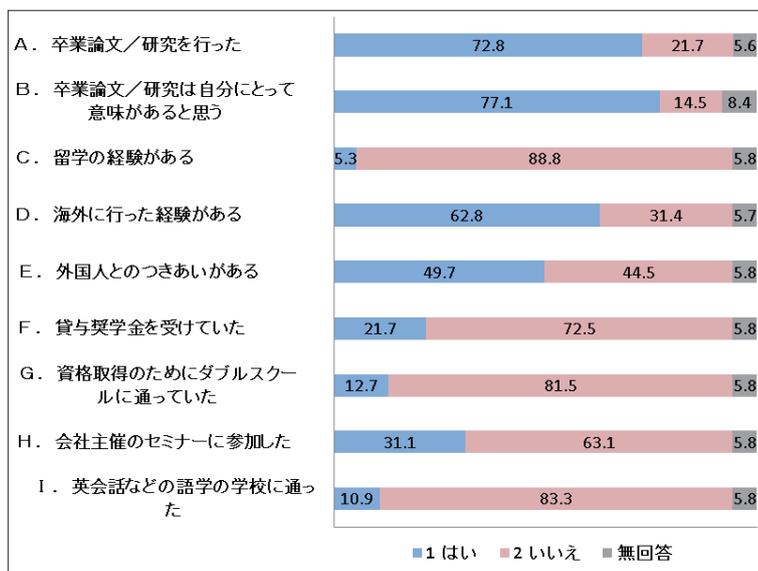
他学部聴講の理由は、「A. 別の専門の科目を聴講して視野を広げるため」が最も多く63.5%となる。これは他の学問領域への学生の関心にもとづく履修であるが、一方で「C. 単位を取得するため」という理由での聴講も57.7%にのぼっていることにも注意が必要である。

教職に必要な単位を取得するための履修は7.6%にとどまる。

卒業論文の意味を感じる学生は約 4 分の 3

ダブルスクールを経験した学生は約 10%

Q. 在学時の学習機会・経験についてお聞きします。



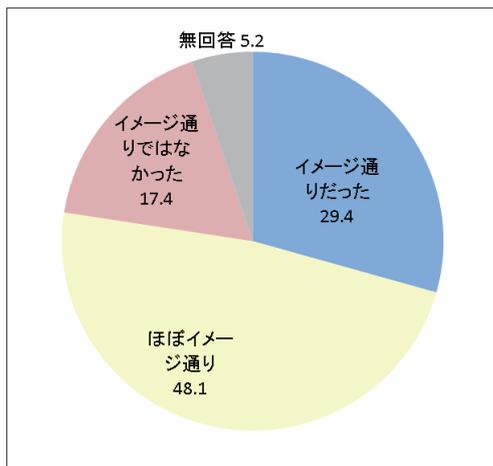
東京大学が提供する学習機会の中で高評価を得ているのが卒業論文/研究である。「B. 卒業論文/研究は自分にとって意味があると思う」と答えている学生は77.1%にのぼる。

海外経験・語学経験では、「E. 外国人とのつきあいがある」が49.7%であることから、外国人とコミュニケーションする機会を持つ学生も一定数いるとみてよい。しかしながら留学経験となると、5.3%にとどまる。

「G. 資格取得のためにダブルスクール」や「I. 英会話などの語学の学校」に通ったのは、それぞれ12.7%、10.9%となっている。

進学先がイメージ通りは約 4 分の 3

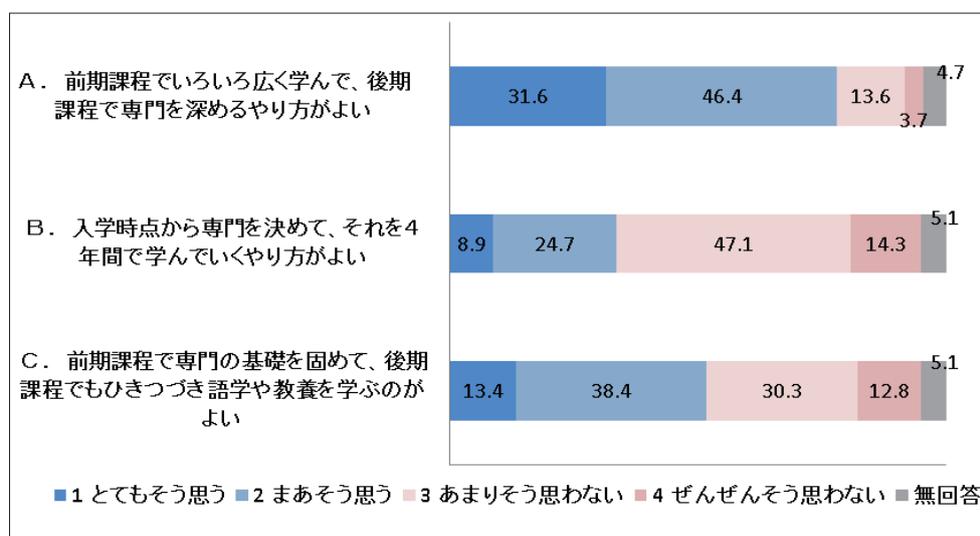
Q. 進学先は、進学前にイメージしていた通りでしたか。



進学先が、進学前にイメージしていた通りとする学生は、29.4%、「ほぼイメージ通り」とする学生は、48.1%で、あわせると 77.5%の学生がイメージ通りだったとしている。これに対して、イメージ通りではなかったとする学生は 17.4%で、イメージと現実の齟齬がある学生も一定の割合で存在している。

教養と専門の学習の仕方については、「前期課程は幅広く、後期課程は専門を深める」という現行方式を評価する学生が 78%だが、後期課程で語学や教養も必要という学生も過半数

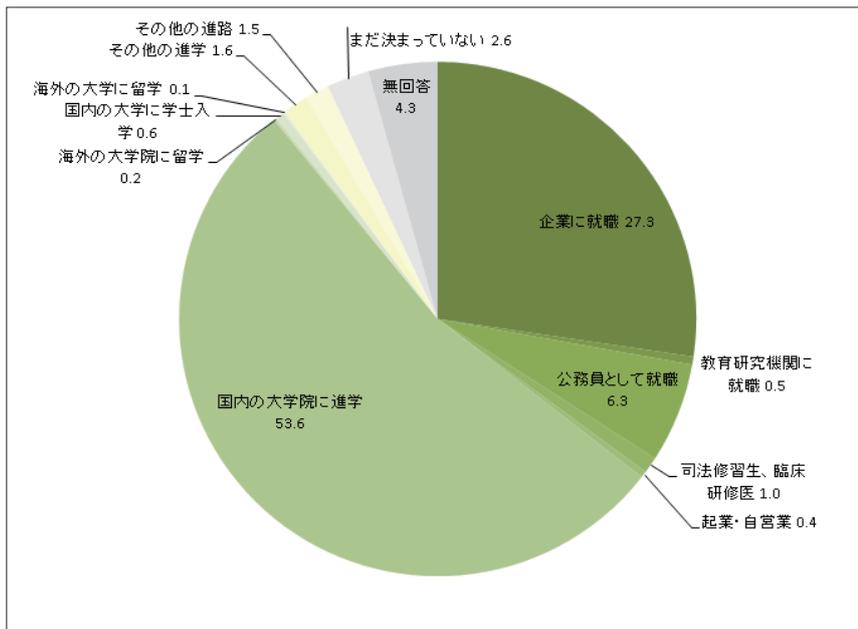
Q. 教養と専門の学習の仕方についていくつかの考え方があります。つぎの項目についてあなたはどのように考えていますか。



東京大学の独自の教育方式である前期課程での教養教育と後期課程での専門教育の組み合わせについて、学生の評価をたずねた。現行方式である「A. 前期課程でいろいろ広く学んで、後期課程で専門を深めるやり方がよい」について、「とてもそう思う」が 31.6%、「まあそう思う」が 46.4%で、あわせて 78.0%の学生が現行方式を評価している。これに対して、「B. 入学時点から専門を決めて、それを4年間で学んでいくやり方がよい」という学生の割合は、33.6%にすぎず、レイト・スペシャリゼーション (late specialization) を評価する学生が 61.4%となっている。ただし、「C. 前期課程で専門の基礎を固めて、後期課程でも引き続き語学や教養を学ぶのがよい」という方式を評価する学生も 51.8%と過半数に達しており、東京大学の学士課程教育全体については、まだ検討する余地があると考えられる。

4月からの進路予定：過半数の学生が大学院に進学、企業への就職は約4分の1

Q. 4月からの予定は、下の項目ではどれにあたりますか



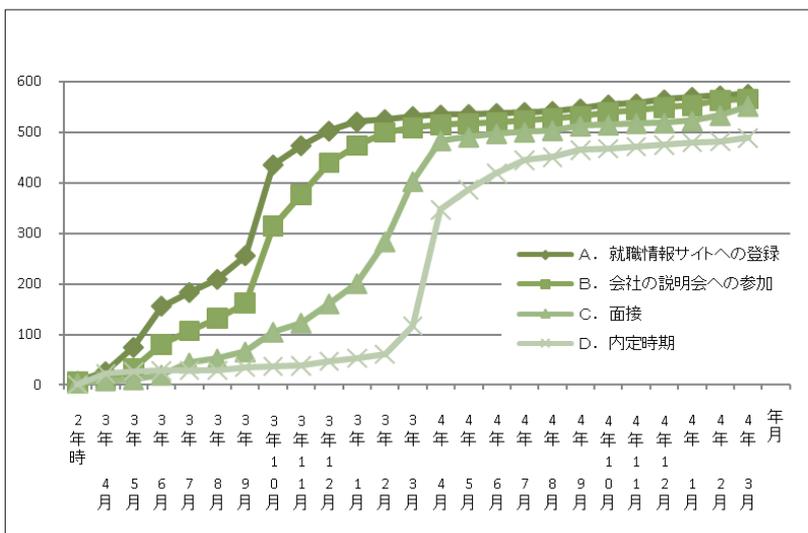
4月からの予定に関しては、「国内の大学院に進学」と回答した者の割合がもっとも高く、53.6%である。これは東京大学の特徴の一つである。続いて、「企業に就職」が27.3%であり、この両者をあわせれば、80.9%となっている。

残りの内訳は、「公務員として就職」6.3%、「その他の進学」と「その他の進路」がそれぞれ1.6%、1.5%、「司法修習生、臨床研修医」1.0%、「国内の大学に学士入学」0.6%、「教育研究機関

に就職」0.5%、「起業・自営業」0.4%、「海外の大学院に留学」0.1%である。このように、学生は卒業時、多数の学生は進路を決めており、「まだ決まっていない」(2.6%)とする学生はきわめて少数である。

早期化する就職活動：4年生の4月で3分の2が内定

Q. あなたは就職活動をいつから始め、いつ内定をもらいましたか。(民間企業への就職活動を行った人のみ)



※タテ軸は、その時期までに各項目のことがらを経験した人数(累積度数)
 ※進学者・無回答者を除いて集計した

グラフは、ある時期までに、どの程度の人が就職活動をはじめたのか、また最終的に内定をもらったのかを示している(累積度数)。どの項目においても曲線が急激に上昇する時期があり、その活動が本格化してきたことを示している。

3年生の5月くらいからサイトへの登録が始まり、9月～10月にピークをむかえる。会社の説明会への参加も、サイトの登録に追隨して本格化する。面接は、3年

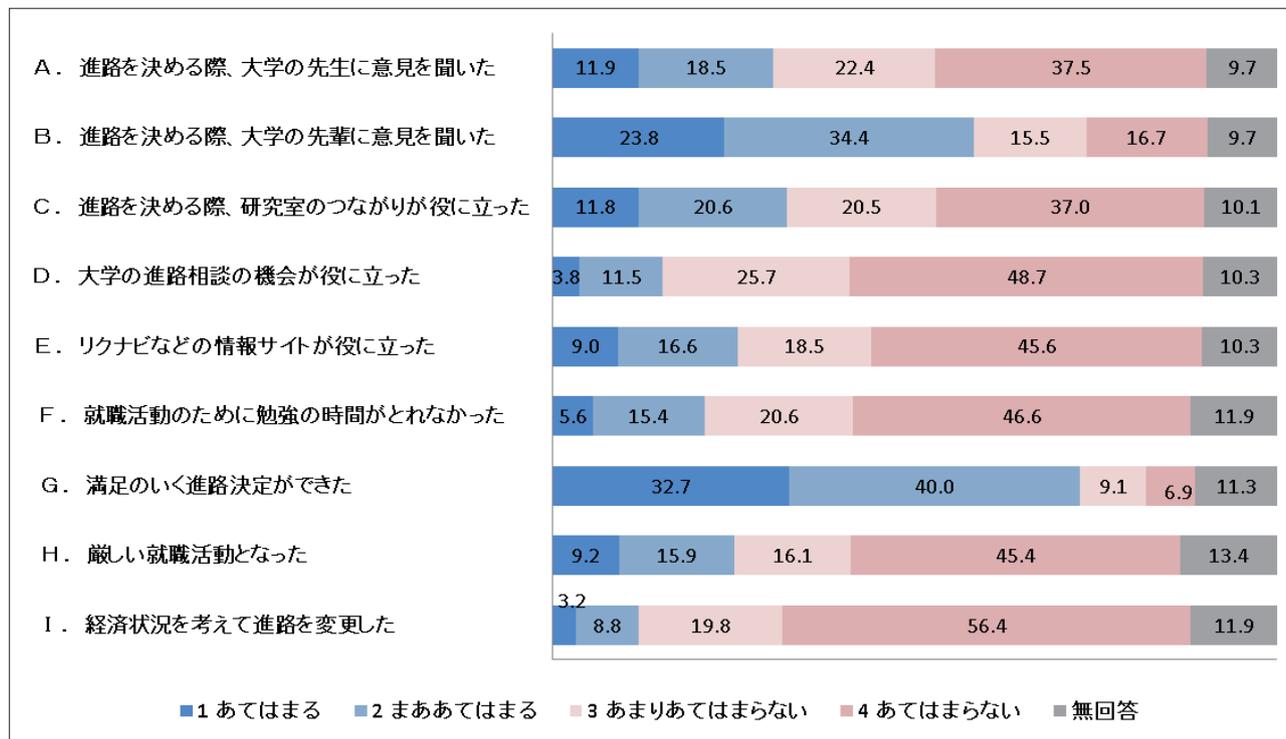
生の1月くらいから本格化し始め、3年には92.4%の学生がこれを経験している。内定の線をみると、4年生の4月に一気に上昇している。60.2%が、この時期までに決まることになるが、5月以降も9月くらいまで漸増がみられる。それ以降は頭打ちとなっており、夏休みを過ぎると就職活動は難しい局面に入ること示している(あるいは、この時期までに進路変更を決めるケースもあることが考えられる)。

就職協定廃止以降、一般的にみられる動向ではあるが、就職活動は4年に入ってから本格化するのではなく、活動の中心は4年の5・6月以前にある。このことが、集計結果から再確認されたとみてよいだろう。

進路決定：「大学の先輩の意見」がもっとも重要

約4分の3の学生が「満足のいく進路決定ができた」と回答

Q. あなたの進路決定のプロセスについてお聞きします。



進路の決定のプロセスについては（A～E）、まず、全体の回答（合計）を見てみると、「あてはまる」と「まああてはまる」とあわせて、「B. 進路を決める際、大学の先輩に意見を聞いた」と回答する割合がもっとも高く、58.2%である。続いて、「A. 進路を決める際、大学の先生に意見を聞いた」が30.4%で、「C. 進路を決める際、研究室のつながりが役に立った」が32.4%、「E. リクナビなどの情報サイトが役に立った」が25.6%となっている。「D. 大学の進路相談の機会が役に立った」との回答の割合は15.3%にとどまっている。

「F. 就職活動のために勉強の時間がとれなかった」について、「あてはまる」は5.6%で、「まああてはまる」(15.4%)とあわせれば、21.0%となっている。「G. 満足のいく進路決定ができた」について、「あてはまる」(32.7%)と「まああてはまる」(40.0%)をあわせると、72.7%に達している。「H. 厳しい就職活動となった」について、「あてはまる」は9.2%で、「まああてはまる」15.9%、両者をあわせて25.1%である。また、「I. 経済状況を考えて進路を変更した」では、「あてはまる」と「まああてはまる」をあわせると、12.0%という結果となっている。

連絡先：大学総合教育研究センター

メールアドレス：cerd@he.u-tokyo.ac.jp ホームページ：<http://www.he.u-tokyo.ac.jp/> 担当：小林

NEWS

一般ニュース

産学連携本部

増加する契約事務をよりスムーズに —研究契約事務担当者向け説明会開催—

共同研究や受託研究の増加を背景に、研究契約のスムーズな遂行を図ろうと、5月13日（金）、16日（月）の両日、産学連携プラザで「研究契約事務担当者向け説明会」（主催：産学連携課、協力：知的財産部）を開いた。

冒頭、植田清美産学連携課長から、「研究契約に関する昨年度の相談件数が延べ1,600件を超えたことから、研究契約事務担当者の方々の業務量が増えていることが推察されます。この説明会で学んでいただくことが、少しでも研究契約業務の手助けになれば幸いです」と挨拶があった。

過去2回の開催は各部局1名以上の参加をお願いしていたが、定期開催となって3回目の今回の説明会は、必要な方、興味のある方という募集をしたにもかかわらず、各部局の研究契約担当として新しく配属された職員やベテラン職員など54名もの多数の参加があり、研究契約事務に対する意識の高さが窺われた。「共同研究契約」「受託研究契約」「秘密保持契約」「成果有体物提供契約書、契約審査の流れ及び会計処理」について、産学連携課企画チームと知的財産部によるスクリーンを使用した説明が行われ、前回開催時のリクエストにも対応する形で、今回の説明会には「著作権の取り扱い」に関する説明も盛り込まれた。

説明会後のアンケートには、約9割の参加者が回答。その中でも特に、「『成果有体物関連、MTA』『日本版バイドール制度』『著作権』などの聞きたい情報が得られた」、「契約業務全体の概要が理解できた」といった感想や、当日、会場で配付された「知的財産用語集」について、「用語集を必要としていたところだったので、とても嬉

しい」といった感想をいただいた。説明会の全体的な感想としては、「とても参考になった」または「参考になった」（9割）とのコメントが寄せられたほか、「個別ケースによる細部の変更があるにしても、部局単位で方針が異なる場合が多いように感じるので、例示集に各部局からの情報を集約してほしい」といった意見も寄せられた。

実際に研究契約事務を担当されている方々からの声を次の説明会で反映できるように、要望事項については産学連携課で検討していきたい。



熱心に聴講する参加者の皆さん

本部評価・分析課

第1期中期目標期間の業務の実績に係る評価結果が公表される

文部科学省国立大学法人評価委員会は、5月24日（火）、第1期中期目標期間の業務の実績に係る評価結果を公表した。

今回の評価は、中期目標の達成状況等について、平成20年度に実施された平成16～19年度評価における評価結果を変更する必要性の確認を基本として実施された。

東京大学の評価項目ごとの評定は下表のとおり。

東京大学は、「その他業務運営に関する重要事項」の判定について「不十分」から「良好」への変更があった。

評価結果の中では、特記すべき点として、教養学部前期課程におけるアカデミック・ライティングプログラム ALESSの開講や初年次活動の充実、世帯給与収入400万円以下の学部学生に対する授業料の全額免除、博士課程研究遂行協力制度等の経済的支援の充実、「清華大学における東京大学ウィーク」、「Todai Forum」等を通じた学術研究成果の発信や研究者・学生交流、東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム（東大EMP）の開講、キャンパス内保育園の整備等による福利厚生施設の充実、政策ビジョン研究センターからの組織的な政策提言・発信などが挙げられた。

評価結果の詳細は、次のウェブサイトから閲覧できる。

■http://www.u-tokyo.ac.jp/gen01/d05_06_j.html

表：項目ごとの評価結果

項目	評価
教育研究等の質の向上の状況	
教育	4
研究	4
社会との連携、国際交流等	5
業務運営・財務内容等の状況	
業務運営の改善及び効率化	4
財務内容の改善	4
自己点検・評価及び情報提供	4
その他業務運営に関する重要事項	4

(凡例)

- 5：中期目標の達成状況が非常に優れている
- 4：中期目標の達成状況が良好である
- 3：中期目標の達成状況がおおむね良好である
- 2：中期目標の達成状況が不十分である
- 1：中期目標の達成のためには重大な改善事項がある

本部留学生・外国人研究者支援課

「東京大学外国人留学生特別奨学制度平成23年度4月期研究奨励費受給者証書授与式」を開催



5月25日（水）16時30分、「東京大学外国人留学生特別奨学制度平成23年度4月期研究奨励費受給者証書授与式」が、田中明彦副学長臨席の下、学生支援センター大会議室で開催された。

本奨学制度は、「大学院において特に優秀な私費外国人留学生に対し研究奨励費を支給することにより、本学での学術研究への取組を支援するとともに、諸外国からの優秀な留学生の受入促進に資する」ことを目的として、平成16年度から実施されているもので、月額15万円が標準修業年限の最終月まで支給される。

本年度4月期は、修士課程8名、専門職学位課程1名、博士課程22名の計31名の大学院学生が受給者として決定され、出席した25名の受給者に田中副学長から受給者証書が手渡された。



受給者証書授与の様子

次いで、田中副学長から、日本語および英語で「受給者の皆さんがそれぞれの分野で研究成果をあげることは、直接的であれ間接的であれ、日本の地震からの復興に貢献するものなので、是非がんばっていただきたい」と激励の言葉があった。引き続き、受給者を代表して新領域創成科学研究科博士課程オドエメナ アントニー トチュクさん（ナイジェリア）から、「研究を進めるにあたり、東京大学フェローシップによるサポートは大きな助けとなります。皆様のご期待にお応えできるよう全力を尽くします」と感謝の意を表するスピーチがあった。



受給者代表のスピーチ

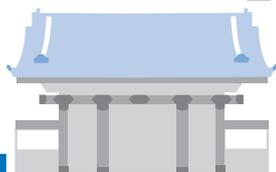


平成23年度4月期研究奨励費受給者と関係者

<問い合わせ先>

国際部 留学生・外国人研究者支援課生活支援チーム
内線22732

部局 ニュース



大学院新領域創成科学研究科

第2回新領域創成科学研究科「市民講座」開催

5月15日（日）、晴天の柏キャンパスに多くの市民の方々が集まった。新領域創成科学研究科主催第2回「市民講座」が柏図書館において開催された。第1回目は非常に分かりやすい電力関連の講座内容であったので、第2回目も連続して聴講したいという多くのご意見をいただいていた。第2回目は新領域創成科学研究科先端生命科学専攻の三谷啓志教授による「生物のもつ放射線防護のしくみ」という演題での講演であった。最近、多くの放射線関連の報道があり、不安を抱く市民の声があったので、113名の参加はうなずけた。

講演では冒頭に、昨今の放射線関連の報道では、様々な専門家が全く異なる見解を公にしている、その立場の違いはどこから来るのだろうか、また1954年の米国水爆実験による多量放射性降下物を浴びた第5福竜丸事件当時から放射線の生物影響はどのように解明されたのだろうかという問題提起から講演はスタートした。最初の部分では、放射線に関する基礎的な内容をおさらいされた。放射線と言っても α 線やX線そして γ 線などがあり、それぞれ特徴が違い、X線を発見したレントゲン博士は、発見当初は多くのX線を浴びたはずだが、放射線関連の発病はされなかった等の科学的な内容まで分かりやすく解説された。また、放射線に関する3つの単位(Bq,Gy,Sv)をお金の価値の表し方に例えて間違った理解をしないように注意された。次に、放射線の生物への影響について2つの例が示された。1つは幹細胞への攻撃。これは特定の線量（閾値がある＝確定的影響）を超えないと発症しない事例であるが、機能を持つ細胞の基になる幹細胞の数が減ってしまい、通常の組織の機能が維持できなくなる状態を指す。もう1つは発がん。突然変異の頻度が上昇することで、その細胞が過剰増殖する。これが生殖細胞に生じてしまうと遺伝的影響まで起こしてしまう。これは小線量でも起こる（閾値がない＝確率的影響）という。しかしながら、生物は進化の過程でDNA損傷に対する修復プログラムを持ち、上記現象に対しての防衛策を持っている。

今回の東日本大震災による福島原子力発電所の事故は、放射線量的に言うと、（特に千葉県は）極低線量被曝の領域のものであり、比較するのは難しいが統計処理すると、喫煙によるがん発生率の方が今回の被曝量によるがん発生率よりもはるかに高い。しかし、今後、土壌

や海洋に放出された放射性物質に関しては長期間に亘って観測し、科学データに基づいて社会としてリスクをどう捉えるかを議論しなければならないと話を締めた。

講演後の質疑応答では、多くの市民の方々が質問され、20程度の質問が約50分に亘ってなされた。中には、「放射線を浴びることで良いことはないのか？」「放射線を作物に侵入させない土壌というはないのか？」という質問をされる方がいた。現在の環境下において、より前向きな放射線との付き合いを今後私達皆がしていかなければならないはずであり、それこそが今必要な姿勢であると感じた。中には「柏地域」は福島県の放射線量に匹敵するほど高い放射線数値がネット上に公開されていることを気にしている方もおられたが、三谷先生からは、「放射線管理室でも東日本大震災以前から柏キャンパス内の放射線量を毎月測定しているが数倍程度になっているだけで人体に影響が見られるレベルでは、全くない」とのことであった。次回は6月12日（日）に芦寿一郎准教授（大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻）による「海溝型巨大地震－海底下で何が起きているのか？」と題した講座が開催される。



新領域創成科学研究科先端生命科学専攻の三谷教授



白熱した質疑応答の様子



本学では、毎年5月と11月の年2回、同月1日現在の学生数を調査し「学内広報」に掲載している。本年5月1日現在の学生数は次のとおりである。
なお、標題の「研究生等」とは学部研究生、学部聴講生、大学院外国人研究生、大学院研究生、大学院特別研究生及び大学院科目等履修生の合計である。

平成23年5月1日現在 学部学生・研究生・聴講生数調

種別	在籍者												外国人学生及び休学者 (再掲)						研究生のうち 外国人 (再掲)		聴講生									
	平成23年度		平成22年度		平成21年度 (以前)		平成20年度		平成19年度 以前		小計		合計		外国人学生 (再掲)		休学者		研究生		外国人 (再掲)		聴講生							
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	計		
入進学 年度別	2,566	589	2,541	603	226	26						5,333	1,218	6,551	105	62	167	21	3	24										
学部・課程別	348	71	341	82	166	36						855	189	1,044	13	5	18	19	5	24										
前期課程・教養学部	93	18	84	16	85	17						366	69	435	8	0	8	9	2	11										
医学部	15	11	9	14	2	1						26	26	52	0	3	3			0										
医 健康総合科学科	885	100	900	101	183	6						1,968	207	2,175	62	20	82	33	4	37	4	37	13	4	17	0	2	7	1	
工学部	269	100	264	102	127	49						660	251	911	10	6	16	51	23	74	2	4	6	0	0	0	0	0	0	
文学部	261	37	271	35	58	1						590	73	663	18	5	23	12	1	13	2	1	3	0	0	0	0	3	0	
理学部	179	64	194	56	35	4						408	124	532	9	1	10	8	2	10	8	1	9	2	0	2	0	0	0	
農学部	20	13	17	15	17	16	2	1				74	61	135	0	1	1	2	0	2	1	0	1	0	1	0	0	0	0	
経済学部	287	60	294	54	75	9						656	123	779	10	11	21	21	5	26									1	1
教養学部	113	66	108	60	45	27						266	153	419	8	7	15	15	12	27	3	4	7	1	1	1	15	11	26	
教育学部	65	35	56	45	26	9						147	89	236	1	0	1	10	5	15	2	2	4					0	0	
薬学部	61	27	65	19	0	1						126	47	173	5	5	10			0	0	2	0	2	0	2	0	0	1	1
	1		4	3	6	2	5	2	0	0	0	16	7	23	1	0	1			0									0	0
小計	2,597	602	2,607	602	825	178	108	33	21	4	6,158	1,419	7,577	145	64	209	180	59	239	52	26	78	2	3	5	36	18	54		
合計	5,163	1,191	5,148	1,205	1,051	204	108	33	21	4	11,491	2,637	14,128	250	126	376	201	62	263	52	26	78	2	3	5	36	18	54		

備考) 1. 農学部の上段は獣医学課程を除く各課程の合計数を、下段は獣医学課程の数を示す。

2. 薬学部の上段は薬学科(6年制)を除く各課程の合計数を、下段は薬学科(6年制)の数を示す。

3. 平成21年度(以前)の欄については、医学部医学科・農学部医学科・薬学科(6年制)は平成21年度入進学者のみ、他の学部学科は平成21年度以前の入進学者を示す。

平成23年5月1日現在 大学院学生・研究生・外国人研究生数調

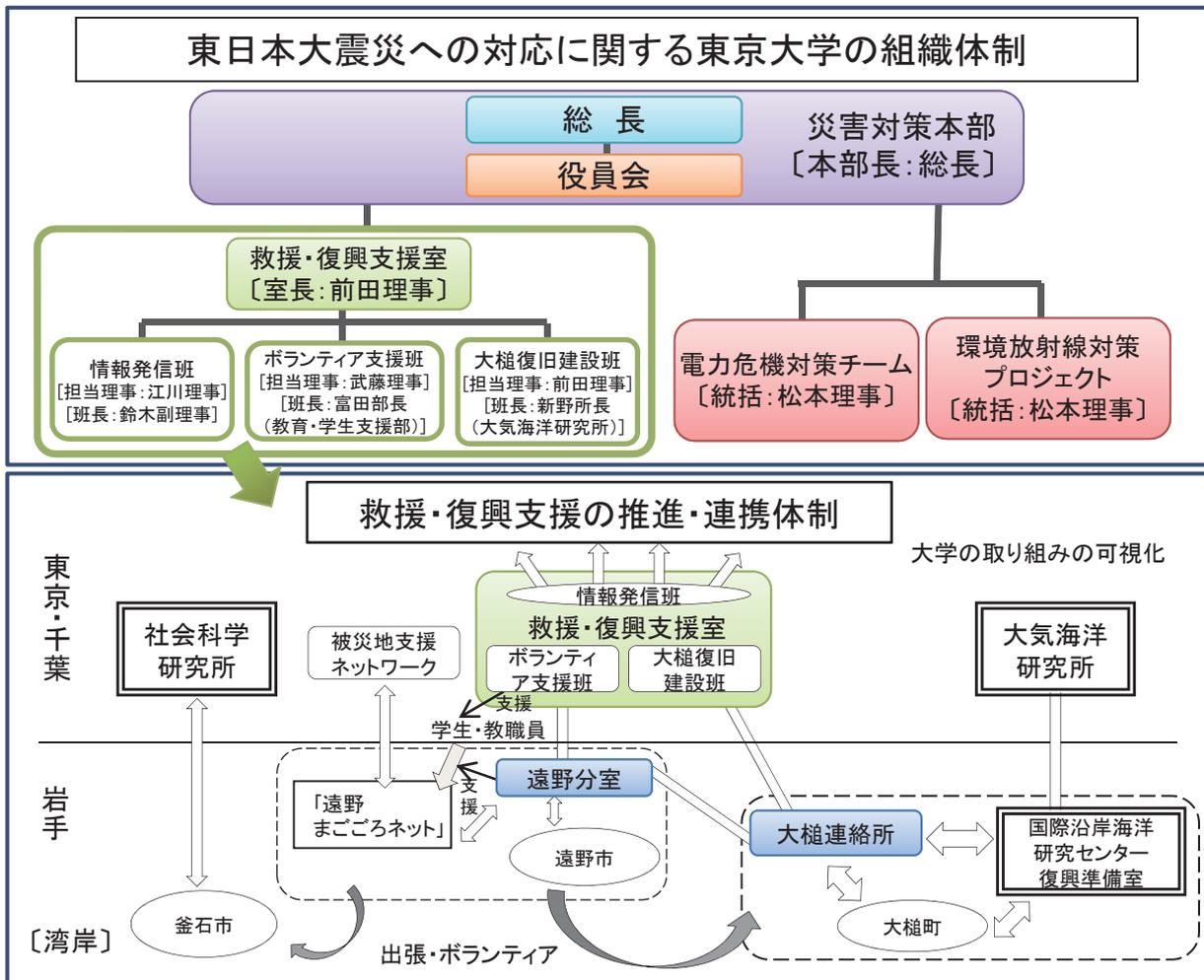
研究科等名	種別 課程別 入進学 年度 性別	在籍者												在籍者のうち 外国人学生(再掲)						在籍者のうち 休学者(再掲)						大学院 外国人 研究生		大学院 研究生		特別 研究生												
		修士 課程			博士 課程			博士 課程			博士 課程			修士(専門課程) 課程			修士(専門課程) 課程			男女		男女		男女		男女																
		23年度		22年度		21年度		20年度		以前		小計		合計		男女		男女		男女		男女		男女		男女																
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女															
人文社会系	67	57	80	47	44	26	191	130	321	43	35	43	35	39	34	151	101	276	205	481	802	16	35	32	50	133	28	15	100	72	215	21	19	40	6	7	13	0	0	0		
	40	42	44	47	16	7	100	96	196	25	26	22	25	29	30	47	59	123	140	283	459	3	12	4	37	56	7	7	38	51	103	2	5	7	2	5	7	1	1	2		
教育学	11	13	11	7	1	2	23	22	45	13	7	6	7	11	10	13	25	43	49	92	137	11	18	14	25	68	0	2	9	9	20	8	4	12	0	0	0	0	0	0		
	[144]	[84]	[154]	[70]	[68]	[57]	[366]	[211]	[577]	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	[577]	[4]	[4]	-	-	[8]	[7]	[8]	-	-	[15]	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
総合法政 政治学	56	16	67	16	2	139	34	173	5	13	3	24	5	26	11	80	24	104	277	19	19	6	5	49	9	2	24	14	49	2	2	4	5	1	6	0	0	0	0			
	155	95	135	97	45	43	335	235	570	82	59	93	48	103	65	175	164	453	336	789	1,359	23	51	55	85	214	33	124	107	287	19	17	36	11	6	17	4	7	11			
総合文化 理学系	283	60	297	58	40	6	620	124	744	154	26	140	25	136	36	60	30	490	117	607	1,351	19	10	31	14	74	17	5	17	5	44	1	4	5	6	4	10	6	0	6		
	746	101	869	131	199	36	1,814	268	2,082	166	38	285	62	300	67	201	63	952	230	1,182	3,264	268	107	379	144	898	62	7	59	18	146	55	29	84	12	5	17	22	11	33		
工学系	[17]	[0]	[0]	[0]	-	-	[17]	[0]	[17]	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	[17]	[0]	[0]	-	-	[0]	[0]	-	-	[0]	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	199	79	200	98	28	9	427	186	613	93	44	73	58	81	55	45	25	292	182	474	1,087	28	36	67	92	223	11	7	20	15	53	8	2	10	8	5	13	4	11	15		
農学生 命科学	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	5	17	12	15	7	12	5	52	33	85	85	-	-	9	14	23	-	0	2	2	2	1	0	1	3	2	5	0	1	1	1	
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	140	68	134	63	121	51	135	55	563	255	818	818	-	-	41	29	70	-	34	19	53	1	2	3	2	0	2	13	5	18		
医学	14	26	13	41	2	11	29	78	107	4	15	12	25	9	36	3	21	28	97	125	232	8	16	8	25	57	1	12	1	15	29	3	4	7	1	2	3	1	1	2		
	17	7	16	11	3	2	36	20	56	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	56	0	2	-	-	2	1	1	-	-	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
医学系	[17]	[14]	[8]	[10]	[1]	[1]	[26]	[25]	[51]	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	[51]	[2]	[2]	-	-	[4]	[1]	[1]	-	-	[2]	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	76	25	68	17	6	3	150	45	195	38	13	46	15	44	14	16	4	144	46	190	385	7	2	9	11	29	4	1	2	1	8	4	4	8	2	0	2	1	5	6		
薬学系	49	2	42	1	7	0	98	3	101	20	1	25	0	18	0	4	1	67	2	69	170	9	2	8	1	20	1	0	2	0	3	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	
	303	92	343	102	65	35	711	229	940	97	26	110	43	99	32	72	36	378	137	515	1,455	54	55	74	37	220	18	8	14	10	50	9	6	15	4	1	5	6	0	6		
新領域創成科学	197	10	193	15	32	2	422	27	449	47	4	77	8	60	5	47	3	231	20	251	700	62	16	84	8	170	14	0	19	0	33	14	6	20	0	0	0	8	2	10		
	41	33	55	34	20	15	116	82	198	22	12	21	17	16	20	42	23	101	72	173	371	17	27	22	35	101	7	7	18	12	44	11	16	27	0	0	0	0	0	1	1	
学際情報	[68]	[26]	[76]	[42]	[20]	[9]	[164]	[77]	[241]	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	[241]	[12]	[17]	-	-	[29]	[6]	[2]	-	-	[8]	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2,254	658	2,433	722	524	199	5,211	1,579	6,790	967	384	1,117	446	1,105	467	1,084	648	4,273	1,945	6,218	13,008	544	408	843	612	2,407	203	107	481	350	1,141	159	121	280	63	38	101	66	45	111		
合計	[246]	[124]	[238]	[122]	[89]	[67]	[573]	[313]	[886]	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	[886]	[18]	[23]	-	-	[41]	[14]	[11]	-	-	[25]	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

備考) 1. 専門職学位課程は、〔 〕書きで示し外数である。
 2. 農学生命科学研究科、医学系研究科の下段学生数は、平成19年度以前の入学者を示し、外数である。
 3. 修士及び専門職学位課程の22年度(以前)の欄については、工学系研究科原子力専攻は平成22年度以前の入学者、他の研究科(教育部)の専攻は平成22年度入学者を示す。
 4. 大学院研究生、特別研究生欄の()内は、外国人を示し内数である。
 5. 外国人学生には在日外国人を含む。
 6. 大学院科目等履修生の数
 7. 教育学研究科の大学院科目等履修生(33人)、法曹養成の大学院科目等履修生(10人)、工学系研究科の大学院科目等履修生(0人)、薬学系研究科の大学院科目等履修生(0人)、情報学環教育部研究生(129人)
 情報理工学系研究科の大学院科目等履修生(2人)

～救援・復興支援室より～

No.1

東日本大震災の被災地からの期待に応じ、本学として救援活動を支援するとともに、大学の社会貢献の一環として当該地域における震災からの復興に向けた支援を行うため、東日本大震災に関する救援・復興支援室を設置しています。



本コーナーでは、これから毎月、救援・復興支援室の活動を簡単に紹介いたします。
初回の今回は、救援・復興支援室の設置以後、5月末までの活動を紹介します。

- 4月11日・・・救援・復興支援室設置
- 4月25日・・・第1回救援・復興支援室会議開催
- 4月27日・・・第1回ボランティア活動報告会
- 5月13日・・・遠野分室・大槌連絡所開設
- 5月20日・・・総長メッセージ「生きる。ともに」公表
- 5月26日・・・第2回救援・復興支援室会議開催
- 5月27日・・・登録プロジェクト(第一次分55件)公表
- 5月27～28日・・・五月祭(救援・復興活動パネル展示、東日本大震災特別講座インターネット配信)

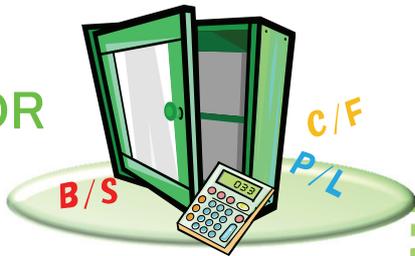
救援・復興支援室の活動の詳細はウェブサイトをご覧ください。
http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/index_j.html

救援・復興支援室
内線: 21750
Email: kyuenfukkou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

プロジェクト登録件数
55件
2011年5月27日現在

決算のDOOR

～数字が語る
東京大学



第9回 「かたち」は見えないけれど

東京大学の財務諸表の一つ「貸借対照表(B/S)」の中に「無形固定資産」の項目があります。読んで字のごとく、「形のない」資産で特許権、借地権、商標権、電話加入権、ソフトウェアから成り立っています。これらは目には見えないけれど「将来にわたって大学に利益をもたらす」価値ある権利であるため、しっかり記帳して管理をしているのです。

その中で唯一カタカナの勘定科目「ソフトウェア」は、その数現在285件、およそ5億円ほどです。エクセルやワードといった誰もがなじみのアプリケーションソフトや、教育、研究用ソフトは対象外。あくまで「収入増加」や「コスト削減」に直接結びつくものが対象になります。病院情報管理システム、人事給与システム、学務システム、はたまた部局独自で開発したシステムなど、その内容は実にバラエティに富み、昨年度も新たに33件のソフトウェアが導入されました。

そのうちのひとつ、工学部日本語教育部門の「日本語教室登録管理システム」は、留学生対象の日本語教室の受講手続と、受講生の管理を目的としたシステムです。留学生は毎学期ごと初級から上級まで30近くの日本語教室のクラスから自分のスキルに合わせたクラスを選び、登録します。クラス選びには先生とのマンツーマンによるレベルチェックが必要ですが、300人以上の学生相手では、非常勤の先生も含めた5、6人態勢でも最低1週間は必要です。それがこのシステムではオンライン上のレベルチェックシートへ学生が入力するだけで、適切なクラスが自動的に決まり、手続きも即完了！入学前の学生も母国から事前に登録が可能です。時間も場所も選ばず、いつでもどこでも世界の果てまでスピーディに手続きができるようになりました。また、紙で管理していた学生の情報も全てオンライン上に登録されているため、受講生の検索や出欠管理も正確かつ効率よく行えます。有事の時も心配ご無用。



学生全員にすぐさま情報提供が可能です。「将来的にはe-learningも取り入れて、学生が来日前に少しでも日本語を学べる環境を作りたい。」と力強くおっしゃるのは日本語教室の古市由美子先生。学生さんにも先生方にもますます便利で有能なシステムになること間違いありません。

さあ、こんな「ソフトウェア」、今CMで話題の宮澤章二さんの詩「行為の意味」風に表現するとこんな感じでしょうか？

……そのソフトウェアはどんな「かたち」ですか
とひとに聞かれても答えようがない
自分にも他人にもその「かたち」は見えないけれど
ほんとうに見えないのであろうか
確かに「かたち」はだれにも見えないけれど
その「成果」はみんなに見えるのだ
それは先生、学生、職員に対するとても便利なシステムだから

決して目立つことのない資産ですが、本当はどの資産よりも温かく優しさにあふれている資産かもしれませんね。(青)

本部財務部決算課 (内線22126)

E-mail: kessanka@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

◆このコラムは一見複雑な国立大学法人会計をわかりやすくご紹介することを目的とし、文章の読みやすさを重視しているため、ある程度恣意的な表現を取ることがあります。あらかじめご了承ください。一ご意見、ご質問お待ちしております！

科学技術インタープリター養成プログラム

なぜだろう、なぜかしら を訪ねて三千里編

廣野 喜幸

大学院総合文化研究科 准教授
教養学部附属教養教育高度化機構
科学技術インタープリター養成部門

私は小学生時代『なぜだろう、なぜかしら』シリーズを愛読していた。今から振り返ると、どうもこのシリーズ本が理系に進んだきっかけのひとつになったようだ、といったことを前回の本欄で述べた。思い出したら、実物をもう一度見てみたくなり、神保町を探し歩いた。同シリーズは、学年別に上下二冊が用意され、成長とともに12冊を順次読み進められるようになっている点に特色がある。当時よく売れたというが、店主に尋ねたところ、古書市場にはあまり出回らないそうだ。幸い、1・3・4・5年生向け上下計8冊(菅井準一ほか著、1955-6年、実業の日本社発行)を手に入れた。

へえ、こんな感じだったですかねえ。40年ぶりの再会にときめいたが、記憶が甦ってこない。あれほど何回も飽きずに読んだのに。まえがき・あとがきを覗いてみると(小学生の頃はこんなところは読まない)、当時の小学生から集めた質問をもとに、質疑応答様式を採用したと記されている。なるほど。質問は天下り式でなく、ニーズに基づいていたのです。そうした質問は、小学校の学年別の学習単元と比べると、ワンランク上のものが多かったという。

科学読み物の歴史を紐解いてみると、質問があり、それに対するそれほど長くはない解答を付し、学年別に集積してゆくスタイルは、以前とは一線を画していた。以前は基本的に以下のいずれかであった。まず、ある著者が自分の得意分野を(単発的に)書籍にしたもの。次に、さまざまな著者による書物を、「～～文庫」と称し、シリーズ化したもの。最後に、一人の著者が「～～文庫」シリーズ全冊を執筆したもの。最後の形式は、『昆虫記』で有名なファーブルの科学啓蒙書の翻訳が日本におけるはじまりである。いずれにしても、一冊の著作を読み通すことが前提にされており、小学校で学んだことに関する箇所はその一部にすぎない。学校の勉強からの独立性は、『なぜだろう、なぜかしら』シリーズに比べると格段に高い。要するに科学好きのための書籍であったのだ。同シリーズは発行1年で5～10刷ほど増刷している。好評をもって迎えられたのである。全員が小学校で習うことを踏まえた上で、そこからさらにわきあがってきた疑問をとりあげる形態は、読者の側からすると、科学好きに限らず、実際疑問に思っていることにびたりとあった答えが得られる快感がもたらされる。同シリーズは、私に限らず、その時代の科学リテラシー涵養に一定以上の寄与をしたと言えるだろう。

だが、この形式の寿命は20年ほどにすぎなかった。1977年同シリーズは全面改訂が施される。このあたりの経緯については、次回をどうぞお楽しみに。再見！

★科学技術インタープリター養成プログラム

<http://science-interpreter.c.u-tokyo.ac.jp/>

産学連携本部 関連組織のご紹介

株式会社 東京大学TLO

本学の全学的産学連携体制は、産学連携本部と密接な連携関係にある2社(株東京大学TLOと株東京大学エッジキャピタル)によって組織全体が構成されています。今回は、当本部と業務委託契約を結び、本学の窓口として産業界との橋渡しをされている、株東京大学TLOの山本社長に、最近の活動状況などについてお話をお聞きしました。

過去最高のライセンス契約に成功

当社は「産学間の知的財産の適材適所の推進による地域社会の構築」を経営理念とした、本学の研究者に軸足を置いたエージェントです。



山本社長

1998年の設立後、2004年の大学法人化以降は、本学に帰属するライセンス契約に注力してきましたが、人材育成が功を奏し、2010年は大学帰属の技術移転で過去最高となる79件のライセンス契約に成功しました。

先生方のエージェントとして、ある種、プロデューサーの役割を担い、本学のナレッジがシナリオ通りに製品化されるのは大変喜ばしいことです。世界に貢献することもできれば、困っている人々を助けることができるかもしれないわけですから、やりがいをとっても感じます。

最近の産学連携事情から「課題先進国」日本を見る

日本の場合、産業界が自社開発主義をとり、ほとんどの大手メーカーが自社開発にこだわりますが、本来、技術開発の在り方というのは、海外の技術を導入したり、日本の大学の技術を導入したりと、どこから導入してもいいわけですから、「オープンイノベーション」の時代にあって、

よそにいいモノがあったらどんどん導入するという考え方です。高い意識でモチベーションを持てば、情報漏洩といった点などもきちんと設計できるはずですが。

本学の発明件数は日米の大学の中でも一番多いのですが、これは特許や知的財産に対する研究者の意識がものすごく変わったということの意味します。産業界と大学は、元々軸が異なるために対立する場合もあるわけですが、大学の研究シーズで使うところは使っていく。大学の研究が世に役立つことが何よりも重要なわけです。Googleやサン・マイクロシステムズの急激な躍進を見ても明らかですが、大手企業は変わらざるをえない状況になってきています。

小宮山前総長が掲げられていた「課題先進国」を引用すれば、高齢化社会だとかエネルギー問題、環境問題といった課題を日本は先んじて持っているわけです。今回の東日本大震

災で、エネルギー問題が脆弱なことがわかりましたが、課題を技術で解決し、その解決策をライセンスすることで貢献できればと考えています。

新人を迎え、さらにパワーアップ!

4月から新入社員1名を迎え、メンバーは現在、23名です。最近ではマーケティングの対象を日本だけでなく、アメリカをはじめヨーロッパ、韓国をはじめとしたアジア各国に広げ、海外ネットワークの強化を図っていますが、今後は特に、海外企業や国内中小企業へのライセンス、分野でいえばライフサイエンス、バイオテクノロジーへ注力していく方針です。

大震災の影響は今のところ出ていませんが、今後は海外へのライセンスを強化したいと考えています。

有益な知識を世の中に広めるべく、今後も技術移転にまい進していきます。

こんにちは。春から新しく東京大学TLOに仲間入りしました藤田知子です。未知の技術に触れられること、さらにその技術が様々な形で世の中に出るという可能性の大きさに魅力を感じて知的財産の世界に飛び込みました。出身は米どころ新潟。日本海の荒波とおいしい食べ物に囲まれて育ちました。趣味は旅行で、国内外問わず世界遺産や神社巡りをしています。東京生活、社会人生活、知的財産の世界と、今は何もかもが新鮮な毎日、あすは何があるのかな? 次は何を学べるのだろうか? と、まるで旅にでも出たようなワクワクした気持ちでいます。知的財産の分野はまだ右も左も分からない状況ですが、笑顔と元気だけは負けずに頑張ります。どうぞよろしくお祈りします!

はじめまして!



コラム 知的財産用語の基礎知識

第3回 「新規性」「進歩性」とは?

新しく考えた発明について特許を取得するためには、その発明が「新規性」と「進歩性」を有している必要があります。

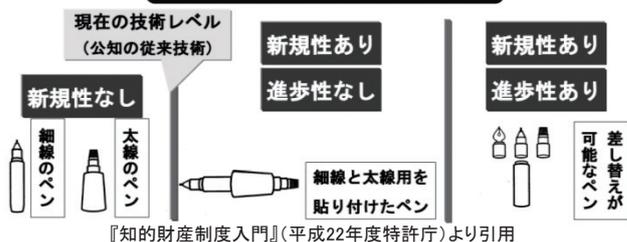
新規性は、今までにない新しいものであることをいいます。自分では新しい発明だと思っても、よく調べてみると同じ発明がすでに存在していたということがあります。この場合、その発明は新規性がないとして特許を取得することができません。これは、既存の発明と同じ発明は、何ら新しい技術を提供してくれるものではなく、特許を与えて保護する価値がないからです。

自分の発明でも、特許出願前に学会や論文などで発表すると新規性を失うことになります。この場合でも、例外的に新規性を失っていないかとみなされる制度はあります。しかし、中国や欧州などのように、このような制度がない国などもありますので、これらの国などでは新規性がないとして特許を取得することができなくなるので、発表前に特許出願することが最善です。

進歩性は、すでに知られている発明からは容易に考えられないもので

「知的財産」という言葉はよく聞けれど、人に説明できない、という方も多いのではないのでしょうか? ここでは、知的財産用語の基礎的な用語について解説します。(執筆: 知的財産部)

新規性・進歩性の判断



あることをいいます。新規性はあっても、既存の発明を少し改良した程度の容易に考えつく発明は、進歩性がないとして特許を取得することができません。これは、少しの改良は日常的に行われるので、技術の進歩に役立つとはいえず、特許を与えて保護する価値がないからです。上の図は、ペンを例に、新規性と進歩性の判断をイメージしたものです。

連絡先: 産学連携本部 (本部産学連携課)
電話: 内線22857 (外線03-5841-2857)
WEBサイト: <http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>

DUCR 検索



DUCR
Division of University Corporate Relations
The University of Tokyo

このページでは、政策ビジョン研究センターが現在最も重要視しているトピックスを中心に、そのときどきのホットニュースをお届けします。

被災の違いを踏まえた地域新生を

注目すべき4つのパターン

政策ビジョン研究センターでは、震災に関する関連の学術機関からの提言や解説、調査結果等をテーマごとにまとめた「震災復興政策支援サイト」を作成し、公開しています。このサイトは特定分野にとらわれず、幅広く考えるときに役立つ情報を提供するプラットフォームとなることを目指しています。コンテンツは当センターオリジナルのものに加え、当センターに寄せられた提言やシンポジウム等の公開資料、寄稿記事等となっています。

今回は政府の復興構想会議のメンバーで、当センター運営委員でもある大西隆教授に、被災地の状況を踏まえた地域新生のアイデアをお聞きしました。



大西隆教授（工学系研究科）

被災地の被害状況には多様性があり、今後の復興は、それぞれのケースにどう対応していくかという難しさがあります。大西

教授によると、大きく4種類のパターンに分類できるそうです。以下、大西先生の発言の抜粋です（詳細は震災復興政策支援サイトをご覧ください）。

1つは漁村集落が全滅した地域。2つ目は陸前高田が典型ですが、市のまとまった市街地が被災した地域。3つ目は釜石や大船渡のように中心市街地がダメージを受け、他は残っている地域です。こうしたケースは同じ場所で復興しないと、中心がなくなるため、被災地域だけ高台に移すことはできにくいという問題があります。4つ目は遮るものがないため、広域にわたって浸水が見られた平地部です。

被災地対策として、高台を作ることがややキャッチフレーズ的に出ている面もありますが、このように地域ごとに異なる被災状況があることを踏まえた復旧・復興対策を考えていく必要があります。

三陸自動車道は救援のために随分役に立ちました。この高速道路は主要なところが、

一定の高さを持つ盛土構造で造られており、ある程度浸水を止めたとも言われています。現状は部分開通ですが、これが全部開通し、さらに仙台の南の東部道路ともつながると、三陸自体が縦につながることになります。その場合、地域再編が起こることも予想されますが、災害時の幹線道路として必要だと地元からも期待されています。

復興は地域主体で自律的に行われていく必要があります。復旧のために投資を行っても、それが地元の経済活動に結びつかないと、その後落ち込むことが予想されます。難しい技術であれば技術訓練をするなどして、できるだけ地元の人が雇用機会を得、復旧・復興過程に参加していく仕組みをつくるのが重要です。

震災復興政策支援サイト

当センターでは、東日本大震災に関する当センターおよび関連の学術機関からの提言や解説、調査結果等を下記のテーマごとにまとめ、発信しています。これまでに発信した主要なコンテンツは下記になります。



Fukushima after 3.11
Photo by Ken Ogiyabu

復興への提言

科学的なエビデンスに基づく政策提言を行うことを使命とするセンターとして、当センター及び関連機関の震災復興に関する研究成果を発信します。

- 菅総理への提言 日本の地域「新生」ビジョン（有識者メンバー）
- 緊急提言：「日本の再建に向けて」（日本工学アカデミー会員有志）
- 震災後の課題（城山英明 教授／The Economist の記事）
- 大震災復興プランはゼロベースの発想に転換を（森田朗教授）
- 東北関東大震災復興に向けての6つの視点（坂田一郎教授）

被災地の生活支援

被災地のニーズを踏まえ、被災者や被災企業の方々に向けて、実質的に役立つアイデアやシステムを提案します。

- 企業間つながり検索システム「SMEET」（坂田一郎教授）
- 医療・介護に関する事務連絡ポータルサイト（秋山昌範 教授）
- 被災者の声に基づく課題分析調査（松浦正浩 特任准教授／公共政策大学院）

地域新生

震災の教訓と課題を踏まえ、今後どのような未来を設計すればよいか。未来都市およびまちづくりの観点から提案します。

- 被災地主導のまちづくりを（大西隆 教授・工学系研究科）
- 持続可能な「ヘルスケア」のかたち（水口哲 氏・博報堂）

原発対応

原子力発電所の事故に関連して、危機管理体制や情報発信のあり方、汚染水の放出に関連するルール等を専門の観点から解説します。

- 福島第一原子力発電所における汚染水の放出措置をめぐる国際法（西本健太郎 特任講師／公共政策大学院）
- 広報と危機管理（藤田正美 客員研究員）
- 福島第一原発4つの「なぜ」（諸葛宗男 特任教授）

電力需給対策

今後の電力需給の見込みを調査・分析し、需要面での工夫や具体的な節電のアイデア、エネルギー供給の将来的見通しを紹介します。

- 大震災による東日本の電力不足に関する緊急提言（公益社団法人 化学工学会）
- エネルギー需給の今から将来を考える（荻本和彦 特任教授・岩船 由美子 准教授／生産技術研究所）

再生への視点

震災を転機として日本はどう再生するのだろうか。現在私たちが直面している、国内政治や政策上の課題について考察し、ありうる選択肢を論じます。

- 原発と核兵器 危険直視し具体策へ道を（藤原婦一 教授／法学政治学研究所）
- 災厄と評論 霧の中で選択肢探る（藤原婦一 教授／法学政治学研究所）

「食べれば解決」

アジアの隣人を知る12枚の写真
(中国編:その3)

中国の大学で講義をすると、いつも一番盛り上がるのが「外来魚駆除問題」の話である。

日本の琵琶湖では、外来魚であるオオクチバスやブルーギルを漁師たちが捕獲している。そして、駆除された外来魚は、粉末状の農業飼料となる。

この話をすると、学生たちは「なぜ、食べないのか」や「バスはフナに比べて美味しい」と言い、「料理方法を教えてあげよう。日本で料理屋を開店したら」と言われる始末である。

地域生態系や生物多様性で反論するが、学生たちの「食べれば解決」説にいつも圧倒される。

私の地元滋賀県では、オオクチバスのナレズシを道の駅で販売しているが、市民の反応は薄い。確かに、せつかく獲った魚を食べないのはもったいないと思う。

写真は、オオクチバスと同じズキ目のケツギョと、ギギ科ハゲギギのごった煮麺である。現地調査中に作ってみた。料理のコツは、内臓をとった後、淡水魚の泥臭さを黄酒で取り除くことである。

白身が淡泊で、まあまあ美味であった。



写真 淡水魚のごった煮麺

文・写真: 卯田宗平
日本・アジアに関する教育研究ネットワーク

日本・アジアに関する教育研究ネットワーク (ASNET機構) は、研究者や学生が分野を超えて繋がり、アジアに関する教育や研究の新たな可能性を探るために設立された東京大学の機構です。

アジアのことを広く、深く知りたい学生の皆さんに研究科等横断型「日本・アジア学」教育プログラムも実施しています。詳しくは下記のURL:

<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>

ASNET機構

検索



第20回 これからの支援の話をしよう。

3月11日の大地震から早、2ヶ月半が過ぎたところです。原発の報道は新聞一面の常駐となり、節電と自粛・反自粛のムードなど、被災された方々の生活は当然ですが、被害の比較的少なかった地域でさえ日常はまだまだ戻りきっていません。この号が発行されるのは3ヶ月半が過ぎた頃ですが、その頃には戻ってきているのでしょうか。

この事業にも影響がありました。貸出のための引渡しを3月中に予定していた学生からは、計画停電中の交通機関の乱れにより登校できなかつたり、ご家族の心配の声から帰省したりしたため、引取りに行けないとの連絡が相次ぎました。また、返却する予定だったのに自国に帰らざるをえず、期限までに日本に戻って来られなかったという留学生もいました。揺れでPCが落下し、壊れてしまったという連絡も受けました。オフィスでは、そのような連絡に対応する傍ら、他部署と協力し、在庫のPC20台を被災地へ発送する支援を行いました。

そんななか、PCに関する、より大規模な支援のお知らせが。経営支援部企画課が企画、指揮をとってくださり、救援・復興支援室より、先生方にノートPCの提供を呼びかけるキャンペーンを行いました(5月20日東大ポータル掲載)。これは本事業の回収システムを利用し、学内の不要PCを被災地の行政・学校・地域産業の復興等のために役立てようという計画です。現状は教職員個人で対応されているケースが多いようですが、それを全学的なものにすることで、より広い支援となるでしょう。私たちもそのお手伝いができて嬉しく思います。

さて、2009年11月から20回を迎えた本連載ですが、突然ながら今回は最終回です。短い間ですがお付き合いいただきどうもありがとうございました。

連載は終わりますが、ノートPCリユース事業はこれからも続きます! 今後ともどうぞよろしくお願いたします!(戸)



オフィスのメインスタッフ。これからもこのメンバーで頑張ります。

☆5月各部局ご提供PC☆

法学部 1台	工学部 2台	理学部 3台
情報理工 11台	東文研 2台	生産研 1台
物性研 1台	病院 9台	本部人事部 1台

以上31台のノートPCは復興支援及び6回目の募集時に利用させていただきます。どうもありがとうございました。引き続きご協力お願いいたします。

- 問い合わせ先: ノートPCリユースオフィス
(本部資産管理部資産課内)
E-mail: pcreuse@adm.u-tokyo.ac.jp
URL: <http://pcreuse.adm.u-tokyo.ac.jp/>
内線: 22135 (担当 小川・高橋・戸田)
- ノートPC回収先: 美津野商事株式会社システム事業部
E-mail: reuse@mizuno.net (担当 川崎・石井)
電話: 03-3943-0181 FAX: 03-3943-4180

ワタシのおシゴト / 第64回

Rings around the UT

医科学研究所経理課 プロジェクト経理事務室

林 崇宏さん

34歳。オトコのイキザマ



パンダブームにあやかりたい

24年間(6+3+3+4+2+2+4)の長きに渡る学生生活で途方に暮れていた私を拾ってくださったのは東京大学でした。この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

が、その間に拵えた借金がこれまた途方もなく、ちっと手を見る毎日…。現状を四字熟語で簡潔に表すならば自業自得。

さて、本題。私は医科学研究所プロジェクト経理事務室にて、文部科学省委託費の科学技術振興費という外部資金を担当しております。課題の数こそ多くありませんが、受入から経費の執行、成果報告まで一連の流れを全て受け持っているのが勉強の日々です。振興費の一大イベントといえば確定調査ですが、入念な下準備と当日のハツリで乗り切ってます。どちらかと言えば後者の方が大事なようで？

楽しい仲間が
ぼぼぼぼ～ん

愛する同期たち(おっさんの混入有り)

得意ワザ：妄想(被害妄想を含む)
 自分の性格：明るい最低人間
 次回執筆者のご指名：森山博樹さん
 次回執筆者との関係：かつて同じフロアいた頃、異彩を放っておられました
 次回執筆者の紹介：ネクタイをシュレッダーにかけた男

コミュニケーションセンターだより No.77

■五月祭大変賑わいました！！

★学生のみなさんも雨の中お疲れさまでした！

5月28日(土)、29日(日)の五月祭では、天候に恵まれなかったにも関わらず、沢山のお客様で大変賑わいました！！

天気予報で台風の情報もあり、寂しくなるのでは…と心配だったのですが、混みあう時間にはレジに長い列が出来てしまうほど、沢山の方にご来店頂きました。

お客様にお話を伺うと、「五月祭に25年来ている」とおっしゃる方や、ご近所にお住まいの常連のお客様がいらっしゃったりと、やはり沢山の方が楽しみにされているイベントなのだと感じました。

■五月祭人気商品

通常、イベントでは「気軽なお土産に」とステーションナリー類が人気ですが、今年は研究成果商品がとても人気でした。

28日(土)に東大アミノ酸の開発者である大谷先生が、UTCCに立ち寄られた際はお客様と大変盛り上がりしていました。

また、「光触媒シート」は、直前にテレビで取り上げられたこともあり、お客様からのご質問、ご要望を沢山頂きました。

★最近「学内広報を見て…」

とご来店くださるお客様が多く、とても嬉しく思っています！

これからもコミュニケーションセンターだよりを宜しくお願いします。



■スタッフお薦め商品★

こんにちは！

4月からUTCCスタッフになりました、馬場です。

私がオススメするのは「歴史クリアファイル」です！

東大に所蔵されている数ある貴重な歴史資料の中から選りすぐった数点をクリアファイルにしたものです。

全部で5種類ありますが、特に私が気に入っているのが「松の栄」です！

溶姫が将軍家から加賀藩へ嫁いでくる様子を描いたもので、かの有名な赤門はこの時に建立されたものなのです。

赤門を通った記念に買うもよし、お友達に見せながら、「赤門は溶姫のお興入れの時に…」など、話の種にするもよし。

ぜひコミュニケーションセンターでお手に取ってご覧下さい。スタッフ一同、ご来店を心よりお待ちしております。

担当：UTCC三浦

文学部3年
馬場 真理子

歴史クリアファイル

5種類 各¥380(税込み)

- ・新版開花勉強出世双六
- ・於東京繪 團圓珍聞
- ・猫の変わり目
- ・松の栄
- ・憲法発布式之図



The University of Tokyo

東京大学コミュニケーションセンター
The University of Tokyo
Communication Center

OPEN：月曜～土曜 10：00～18：00

電話：03-5841-1039

http://www.utcc.pr.u-tokyo.ac.jp



【三四郎池の滝】三四郎池に「滝」があるのは案外知られていないのでは？ また、いつも「滝」が流れているとは限らないようで、めずらしいので、撮りました。

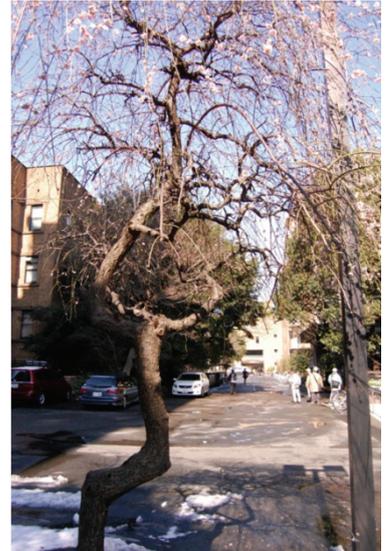


【構内-2】黄昏時の法文2号館です。明かりが入った直後で幻想的で美しかったです。時間で趣が全然違います。



【構内-3】昨冬の医学部2号本館のイルミネーションです。

(撮影： 本部卒業生室 林 義之さん)



【しだれ梅】農学図書館前のしだれ梅。みんなで手入れしました。



【残雪の宴】安田講堂前に学生が作った個性的な雪だるまの宴。



【雪原】農学図書館裏の桑畑。四季を感じるスポットです。

(撮影： 農学生命科学図書館職員 渡壁典弘さん)

INFORMATION

シンポジウム・講演会

シンポジウム・講演会

生産技術研究所

「イノベーション基盤シミュレーションソフトウェアの研究開発」プロジェクト第3回シンポジウム開催のお知らせ

■開催趣旨

高品質製品の創出を得意技としてきた我が国のものづくりは、今後、科学に立脚したアプローチとの融合により更なる進化を遂げることが期待されています。中でも、シミュレーション技術はそのための基幹技術として、従来の概念を超えた新しい役割を果たすことが求められています。

このような状況を踏まえ、平成20年10月1日からスタートした「イノベーション基盤シミュレーションソフトウェアの研究開発」プロジェクト（文部科学省「次世代IT基盤構築のための研究開発」）は、産業イノベーションに資する我が国独自のシミュレーションソフトウェアの研究開発とその普及を目標に掲げ、ものづくりプロセスのイノベーションとプロダクトそのもののイノベーションを創出するための基盤となるシミュレーションソフトウェアの研究開発を推進しています。

本プロジェクトの第3回目となる今回のシンポジウムでは、「みえてきた先端シミュレーションの実力」と題し、第1日目は我が国を代表する計算科学技術についての基調講演の後、京速コンピュータ時代において益々威力を発揮する先端ソフトウェアの事例研究についての報告を行い、将来の社会・産業への計算科学の新しい役割・貢献について提案します。第2日目には産業界で実際に活用している方々からの先端的ソフトウェアの利活用報告を、分野ごとに数多く紹介します。多くの方々のご参加をお待ちしております。

■開催日時など

開催日時

【1日目】7月14日（木）10：00～18：30

【2日目】7月15日（金）10：00～17：30

会場 生産技術研究所コンベンションホール
(An棟2階)

主催 生産技術研究所

後援(予定) 日本学会議

自然科学研究機構分子科学研究所

(独)海洋研究開発機構

(独)理化学研究所

(財)計算科学振興財団

協賛 学会（28機関予定）

参加費 無料

URL <http://www.ciss.iis.u-tokyo.ac.jp/riss>

募集

募集

環境安全本部

本学の喫煙対策について

平成23年6月
東京大学環境安全本部

東京大学喫煙対策宣言(案)及び東京大学喫煙対策基本方針(案)並びに東京大学喫煙対策実施要領(案)に関する意見の募集について

本学における適切な喫煙対策の在り方を検討するため、平成22年7月から喫煙対策ワーキングにより喫煙対策宣言及び喫煙対策基本方針並びに喫煙対策実施要領の改正作業を進めて参りました。

このたび、改正案がまとまりましたので、学内に公開し、教職員及び学生の方々から喫煙対策宣言(案)及び喫煙対策基本方針(案)並びに喫煙対策実施要領(案)についての意見を聞くことといたします。

つきましては、別紙「意見投稿要領」により、各案についてのご意見・コメントを募りますので、是非、お寄せください。

お寄せいただきましたご意見への返答は、整理のうえ、後日、東大ポータルによる公開を予定しております。

なお、改正後の喫煙対策宣言及び喫煙対策基本方針並びに喫煙対策実施要領は、平成23年秋頃を施行予定としております。

1. 募集対象

- (1) 東京大学喫煙対策宣言(案)
- (2) 東京大学喫煙対策基本方針(案)
- (3) 東京大学喫煙対策実施要領(案)

※詳細は、東大ホームページをご覧ください。
「喫煙対策宣言等に係る意見募集について」
http://www.u-tokyo.ac.jp/fac06/public18_j.html

2. 募集期間

平成23年6月8日(水)から7月28日(木)
最終日17時必着

3. 投稿方法

電子メール(郵送、学内便、ファックスも可)

※電話でのご意見等は、お受けいたしかねますので
了承願います。

4. 投稿先

東京大学環境安全本部 喫煙対策箱 宛
〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1
メールアドレス
kankyoeiseikikaku@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
ファックス 03-5841-1053

※電子メールの「件名」に「喫煙対策箱」と記述願
います。
※氏名、電話番号など個人情報を記述する必要はあり
ません。

お知らせ

お知らせ

生産技術研究所

生まれ！ 発明王 第9回東京大学学生発明 コンテスト

今年で第9回を迎える発明コンテスト。本学の学生で
あればどなたでも参加できますので、皆様ふるって応募
してください。また、教職員のみなさまにはコンテスト
の趣旨を、広く学生の方々に周知していただきますよう
お願い致します。

募集趣旨：これからの知的立国を支える人材には、知的
生産活動により得られた新規アイデアを個人の内に秘め

ておくばかりでなく、その新規性の権利を明確に主張で
きることが、強く望まれています。柔軟な思考を持つ学
生諸君に、そのような権利主張を行うトレーニングの機
会を与えることを目的として、発明コンテストを企画し
ました。この機会を通じて、権利主張の能力を磨いてい
ただくとともに、知的財産権に対する理解を深めていた
だくことを期待しています。

※HPで第1回から第8回の本コンテストの詳細を見る
ことができます。<http://hatsumei.iis.u-tokyo.ac.jp/>

応募資格：本学の学生(学部学生・大学院生等)

応募期間：6月3日(金)～9月30日(金)(必着)

※ まず下記ホームページ上のエントリーフォームか
ら氏名、所属、メールアドレスを送信してエント
リー！折り返し応募書類ならびに過去の応募例など
をお送りします。

<http://hatsumei.iis.u-tokyo.ac.jp/>

日程：

10月下旬：書類審査終了 予備審査結果の通知
12月22日(木)：本審査 プレゼンテーション
平成24年1月初旬：審査結果の通知
平成24年1月下旬：表彰式

募集分野：

アイデアのみでも試作品段階でも結構です。

一般部門：日用品から専門知識を活かしたものまで、発
明の分野を問いません。

課題部門：今年度のテーマは『「ものづくり」に役立つ
発明』です。

※ 課題部門の審査に当たってはアイデア、プレゼンテ
ーション技術をより重視して行います。

審査：生産技術研究所(産学連携委員会)、産学連携本部、
財団法人生産技術研究奨励会(TLO)、弁理士の関係者
で行う予定

※ 審査においては、特許性よりもアイデア、プレゼン
テーション技術を重視する予定です。

※ 本審査に際しては、特許事務所に先行事例の調査を
依頼します。

表彰：発明大賞、産学連携本部長賞、生産技術研究所長
賞、アイデア賞、奨励賞(数件)

※ 各賞に賞状、(株)ニコンより豪華副賞、賞金(総
額50万円)／参加者全員に記念品

※ 優秀な発明に対しては、特許出願のアドバイス

※ 一人で複数の発明を応募しても構いませんが、発明
ごとに別々に応募してください。

主催：生産技術研究所、産学連携本部、財団法人生産技術研究奨励会（TLO）
詳しくは下記ホームページをご覧ください。
<http://hatsumei.iis.u-tokyo.ac.jp/>

問い合わせ先・応募先：
〒153-8505 東京都目黒区駒場4-6-1
東京大学生産技術研究所内
財団法人生産技術研究奨励会 発明コンテスト係
電話：03-5452-6094 Fax：03-5452-6096
E-mail: hatsucon@iis.u-tokyo.ac.jp

お知らせ

大学院総合文化研究科・教養学部

「教養学部報」第539（6月8日）号の発行 ——教員による、学生のための学内新聞——

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、学際交流棟ロビー、15号館ロビー、図書館ロビー、生協書籍部、駒場保健センターで無料配布しています。バックナンバーもあります。

第539号の内容は以下のとおりとなっていますので、ぜひご覧ください。

廣野喜幸：データの不正と科学者の責任
——学術雑誌における査読の役割
佐藤直樹：理系学生にもっと第2外国語を
～豊かな国際化のために～

〔本郷各学部案内〕
大村敦志：法学と法学部
——変わるもの・変わらないもの
宮園浩平：医学の魅力・医学部の魅力
近山隆：工学部ってなにをしたらいい？
中地義和：文学部を間近から
吉川洋：経済学とは
市川伸一：教育学部への招待
福田裕穂：理を学ぶ——今こそ必要な「自然の根源
的ルール」の理解と「科学の目」
長澤寛道：歴史を土台に未来を切り拓く農学部
花岡健二郎：薬学部で学ぶ創薬科学および基礎
生命科学研究

演奏会：シューマン歌曲の調べ
学部報委員会：コーナーストーン／委員交替

お知らせ

情報基盤センター

「文献検索早わかり」ほか “情報探索ガイダンス”各種コース実施のお知らせ

講習会に参加して、文献の探し方・Webでの文献管理方法を、マスターしましょう！

情報基盤センター図書館電子化部門では、定期的に、“情報探索ガイダンス”各種コースを実施しています。実際にパソコンを操作しながら実習するので、わかりやすいと大変好評です。

7月は、提供元から講師を招いて実施する2コースもあります。この機会をお見逃し無く！

本学にご所属であれば、学生・教職員を問わず、どなたでも参加できます。ぜひご参加ください。

※自宅からの利用方法はどのコースでも説明します。

文献検索の入門編
文献検索早わかり
7/6(水) 15:00～16:00

はじめての Web of Science
7/8(金) 15:00～16:00

人文社会科学系のための Web of Science+ EndNote Web 入門
7/12(火) 14:30～16:00

自然科学系のための Web of Science+ EndNote Web 入門
7/14(木) 14:30～16:00

文献リストをサクッと作成 RefWorks を使うには
7/19(火) 15:00～16:00

OECD の出版物や統計を探するには？
7/21(木) 13:30～14:30

経済学・経営学・国際ビジネス情報を検索するには？
7/27(水) 13:30～14:30

医学・生命科学系のための 文献検索+ RefWorks 入門
7/29(金) 15:00～16:00

申込み先 7/21,7/27の講習は、以下にメールでお申込みください。
literacy@lib.u-tokyo.ac.jp
件名：7月ガイダンス参加希望 (OECDまたはBusiness Source)
本文：(1)参加講習会 (2)氏名 (3)身分 (4)所属 (5)講師への質問 (6)利用経緯

■ 7/6（水）15:00～16:00

文献検索早わかり

これから文献検索をしてみたいという方向けに、学内での文献入手方法と、テーマから雑誌論文（日本語・英語）や新聞記事を探す方法の基本を、代表的なデータベースを使って実習します。文献検索の入門編としておすすめです。（「はじめての論文の探し方」コースと新聞記事検索以外は内容が重複します。ご了承ください。）

■ 7/8 (金) 15:00~16:00

はじめてのWeb of Science

Web of Scienceは11,000誌以上の学術雑誌掲載論文を検索できる、代表的な雑誌論文データベースです。論文の引用情報も調べることができます。収録論文は全分野にわたるため、どの分野の方にもおすすめします。はじめての方向けにゆっくりと、Web of Scienceを使った英語論文の基本的な探し方を実習します。

■ 7/12 (火) 14:30~16:00

人文社会科学系のための

Web of Science + EndNote Web入門

人文社会科学系の方向けに、11,000誌以上を収録対象とした代表的学術雑誌論文データベース「Web of Science」の利用方法と、検索した論文を文献管理ツール「EndNote Web」に取り込む方法、参考文献リストの自動作成方法を実習します。

■ 7/14 (木) 14:30~16:00

自然科学系のための

Web of Science + EndNote Web入門

自然科学系の方向けに、11,000誌以上を収録対象とした代表的学術雑誌論文データベース「Web of Science」の利用方法と、検索した論文を文献管理ツール「EndNote Web」に取り込む方法、参考文献リストの自動作成方法を実習します。

■ 7/19 (火) 15:00~16:00

RefWorksを使うには？

これからRefWorksを使ってみようという方向けに、Web版の文献管理ツール「RefWorks」の使い方を説明します。CiNii（日本語論文）、Web of Science、ProQuest（英語論文）など代表的なデータベースからのデータの取り込み方、参考文献リストの自動作成方法を実習します。（「人文社会科学系のためのRefWorks入門」「自然科学系のためのRefWorks入門」参加者は受講不要）

■ 7/21 (木) 13:30~14:30

OECDの出版物や統計を探すには？

「OECD iLibrary」講習会【※予約優先】

OECDの出版物、統計情報等を全て収録したデータベース「OECD iLibrary」の利用方法を実習します。OECD東京センターから講師を招聘して行います。

■ 7/27 (水) 13:30~14:30

「Business Source Complete」で経済学・経営学・国際ビジネス情報を検索するには？【※予約優先】

経済学・経営学・ビジネス分野の学術雑誌論文をはじめ、市場調査や企業レポートなど経済学・経営学・国際ビジネス研究分野の抄録・全文情報を提供しているデータベース「Business Source Complete」の利用方法を実習します。提供元のEBSCOから講師を招聘して行います。

■ 7/29 (金) 15:00~16:00

医学・生命科学系のための

文献検索 + RefWorks入門

文献検索の機会が多い医学・薬学・生命科学・生物学系の方向けに、「PubMed」「Web of Science」の検索テクニックと、検索結果をWeb版の文献管理ツール「RefWorks」に取り込み参考文献リストの自動作成方法を実習。雑誌のインパクトファクターの調べ方も解説。（6/30の「Introduction to Medical Document Databases as Research Tools」【Advanced Course】の受講者は参加不要）

●会場：本郷キャンパス総合図書館1階講習会コーナー（ECCS無線LANまたは全学共通無線LANサービスutroamの設定済みのノートPC持込OK）

●参加費：無料

●予約不要（※7/21、7/27のコースを除く）

各回先着15名。直接ご来場ください。

●申込み先：

※以下の2コースのみ、予約優先です。

・7/21（木）「OECD iLibrary」講習会

・7/27（水）「Business Source Complete」講習会

学術情報リテラシー係（literacy * lib.u-tokyo.ac.jp）宛てに、以下のメールをお送りください。

（*は@に置き換えて送信してください。）

件名：7月ガイダンス参加希望（OECDまたはBusiness Source）

本文：(1)参加講習会（OECDまたはBusiness Source）

(2)氏名 (3)身分 (4)所属 (5)講師への質問 (6)利用経験

★授業・ゼミでも講習します！

論文の探し方の出張講習を、随時受付中です（無料）。授業やゼミの内容に合わせて講習いたします。会場のことなど、ご相談に応じます。まずはお気軽にお問い合わせください。どのキャンパスでもOKです。

過去の実施例は以下のURLでご覧いただけます。

（<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/shuccho.html>）

★Litetopiメールマガジン発信中！

本学所属の方を対象に、データベースのニュースや講習会のご案内などをお届けします。配信ご希望の方は、下記アドレスまでメールでご連絡ください（無料）。



literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

●お問い合わせ：

学術情報リテラシー係 03-5841-2649 (内線：22649)

literacy * lib.u-tokyo.ac.jp

(*は@に置き換えて送信してください。)

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>

(ツイッター http://twitter.com/gacos_today)



お知らせ

本部学生支援課

東京大学音楽部管弦楽団
サマーコンサート2011のお知らせ

東京大学音楽部管弦楽団は1920年、東京帝国大学音楽部として発足しました。創立以来、近衛秀麿・柴田南雄・別宮貞雄・早川正昭の各氏をはじめ音楽界に数多くの人材を輩出しています。これまでに96回の定期演奏会の他、多数の演奏旅行を実施しています。平成14年度には第2回学生表彰「東京大学総長賞」を受賞しました。

今年は埼玉・東京・松本・神戸・高松にてサマーコンサートを開催致します。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

<埼玉公演>

7月18日(月・祝) 13:30 開場 14:00開演

大宮ソニックシティ 大ホール

<東京公演>

7月30日(土) 18:00 開場 18:30開演

文京シビックホール 大ホール

<松本公演>

8月6日(土) 14:00 開場 14:30開演

長野県松本文化会館 大ホール

<神戸公演>

8月7日(日) 18:30 開場 19:00開演

国際会議場 ポートピアホール

<高松公演>

8月9日(火) 17:30 開場 18:00開演

サンポートホール高松 大ホール

指揮：三石精一(当団終身正指揮者)

曲目：モーツァルト 『魔笛』序曲

R. シュトラウス 交響詩『ドン・ファン』

ブラームス 交響曲第3番へ長調

料金：全席自由 1,000円

チケットのお申し込み・お問い合わせ：

当団ホームページ <http://www.ut-orch.com/> または

メール todayorch_ticket_2011@yahoogroups.jp より

お願い致します。



【本件に関する問い合わせ】

本部学生支援課学生生活チーム

担当：山形(内線：22514)

E-mail: gakuseiseikatsu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

お知らせ

大学院総合文化研究科・教養学部

特別展「小石川植物園と植物学の世界」

教養学部駒場博物館では、夏の特別展として「小石川植物園と植物学の世界」展を7月16日(土)～9月19日(月・祝)まで開催いたします。

小石川植物園は、徳川綱吉の幼時の居邸であった白山御殿の地に1846年に開設された小石川御薬園を引き継ぎ、明治10(1868)年に東京大学の附属施設となりました。当時、すでに西洋の植物学に触れていた本草学者伊藤圭介と賀来飛霞が植物園で植物取調べを行なう一方、神田一橋の植物学教室(明治18年に方烏合構内に移転)ではアメリカ帰りの矢田部良吉が研究をリードし、植物園の管理(園長)も担当していました。平瀬作五郎による「イチョウの精子発見」の偉業が達成された直後、明治30年

には植物学教室が植物園内に移転して、昭和9年までの間、小石川植物園は文字通り日本の植物研究センターでした。松村任三やその弟子によって分類学が推進されたのはもちろん、三好学、藤井健次郎やその弟子により形態学、生理学、生態学、細胞学、遺伝学といった植物学の様々な分野が発展しました。1980年頃から植物分類学の研究が植物園で再出発し、研究・研究支援施設として活発に活動しています。

本展覧会では、小石川植物園や植物学の歴史・研究について解説します。『小石川植物園草木図譜』とその元絵図や、最近調査された資料なども展示いたします。

ギャラリートークや体験・参加型のイベントなどもあわせて実施する予定です。9月17日(土)～19日(月・祝)には、日本植物学会が駒場キャンパス内で行われます。公開シンポジウムは9月19日(月・祝)午後で開催されます。開館時間は10:00～18:00(入館は17:30まで)、火曜休館。展示やイベントに関する最新情報は、駒場博物館ホームページにてご確認ください。

<http://museum.c.u-tokyo.ac.jp/>



ニューページ、 インフォメーションページ への記事提出要領

「学内広報」は皆さんから送っていただく記事で作られています。下記の提出要領により、積極的に学内の情報をお寄せください。

1. 提出方法

記事は、各部署の広報担当者を通して、メールの添付ファイルとしてデータで送付すること。

2. 締切日

本学HPの右下にある「学内広報アイコン」をクリックして発行スケジュールをご確認ください。

3. 提出の際の留意事項

(1) 文字数

文字数は記事1件につき800字を目安とし、内容により増減は可とする。

(2) 写真

- ① 写真を掲載する場合はキャプション(説明文)を25文字以内で添えること。
- ② 写真を電子データで提出する場合、Wordファイルなどに貼り付けず、jpeg等の形式による元の画像ファイルを送付すること。
- ③ 写真は電子データがない場合、プリントのものも掲載可とする。

(3) 書式

- ① 原稿は1行25文字の書式で作成すること(ただし、大きな図表などが含まれる場合は、この限りではない)。
- ② 原稿のはじめに担当部署名と記事タイトルを記載すること。
- ③ 記事タイトルは極力簡潔でわかりやすいものとする。

(4) 文章表現のきまり

- ① 句読点は「、」「。」を用いること(「,」「.」は用いない)。
- ② 時間は24時間表記とし、日付には括弧書きで曜日をつけること。
- ③ 記事内の人名は極力フルネームで表記。
- ④ この他、特に表記する必要のない「平成●年」は削除する、特に支障がない限り「東京大学」は「本学」とする等、表記統一のための修正を編集段階で行う。

※編集スケジュールの都合上、原則として校正はできません。基本的にはいただいた原稿がそのまま掲載されますので、内容に間違いのないよう、十分ご注意ください。

4. 問い合わせ先・提出先

本部広報課 広報企画チーム
TEL: 03-3811-3393 内線22031
E-mail: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

人事異動（教員）

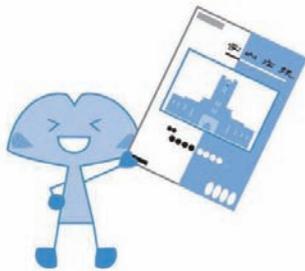
発令日、部局、職、氏名（五十音）順

発令日	氏名	異動内容	旧（現）職等
（退 職）			
23.5.31	中村 耕三	辞 職（国立障害者リハビリテーションセンター・自立支援局長）	大学院医学系研究科教授
23.5.31	森 臨太郎	辞 職	大学院医学系研究科准教授
23.5.31	山本 剛久	辞 職（名古屋大学大学院工学研究科・教授）	大学院新領域創成科学研究科准教授
23.6.1	服部 民夫	辞 職	大学院人文社会系研究科教授
（昇 任）			
23.5.16	五十嵐 健夫	大学院情報理工学系研究科教授	大学院情報理工学系研究科准教授
23.5.16	枝川 圭一	生産技術研究所附属サステイナブル材料国際研究センター教授	生産技術研究所附属サステイナブル材料国際研究センター准教授
23.5.16	三河内 岳	大学院理学系研究科准教授	大学院理学系研究科助教
23.5.16	伊藤 幸彦	大気海洋研究所附属地球表層圏変動研究センター准教授	大気海洋研究所助教

※退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。

東京大学における教員の任期に関する規則に基づく専攻、講座、研究部門等の発令については、記載を省略した。

平成23年度 学内広報 発行スケジュール



問い合わせ先・原稿提出先

本部広報課 広報企画チーム
TEL: 03-3811-3393 内線 82032
E-mail: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

都合により変更になる可能性がありますので
最新のスケジュールは下記URLよりご確認ください。

号数	原稿〆切	発行日 (校了)	配布
1415	7月 28日(木)	8月 25日(木)	8月 31日(水)
1416	8月 30日(火)	9月 26日(月)	9月 30日(金)
1417	9月 29日(木)	10月 25日(火)	10月 31日(月)
1418	10月 28日(金)	11月 24日(木)	11月 30日(水)
1419	学生生活実態調査号		
1420	11月 24日(木)	12月 16日(金)	12月 22日(木)
1421	1月 5日(木)	1月 25日(水)	1月 31日(火)
1422	1月 31日(火)	2月 23日(木)	2月 29日(水)
1423	2月 29日(水)	3月 26日(月)	3月 30日(金)

学内広報にご寄稿の際は、以下のURLにある「記事提出要領」をご参照ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou_j.html 【東京大学ホームページ】→【左下の学内広報アイコンをクリック】

第84回五月祭開催

開催日

5月27日（金）午後 学内公開

28日（土） 両日 一般公開

29日（日）

五月祭一般公開初日は、あいにくの小雨の中スタートしましたが、多くの来場者で賑わいました。



今年の五月祭マスコット
キャラクター・めいちゃん

多くの来客で
賑わう模擬店



今年は、講演会、研究成果の展示、音楽演奏、各種パフォーマンスや模擬店だけでなく、震災関連企画等、約500件の企画が参加しました。期間中、屋内は実験の参加型企画やバンド演奏等で賑わい、屋外は模擬店への呼び声やパフォーマンスへの歓声が響き渡り、いつもと違う賑わいのキャンパスの中、祭りを楽しみ、祝う人々の笑顔がたくさんありました。

子ども達に大人気
トイレットペーパー
折紙の展示



総合図書館前での
和太鼓演奏



なお、天候に恵まれず途中、小雨が降り気温が上がらないという天候にもかかわらず、一般公開日の2日間で、約70,000人（昨年度75,000人）もの方にご来場いただきました。

今年の五月祭も滞りなく無事に終了しました。ご協力いただいた学内関係者、ご来場の皆様に深くお礼を申し上げます。来年もよろしくお願いたします。

東北カフェ企画
（右上）の店内
で販売された
被災地の陶芸家
による作品
（左下）



■本件お問い合わせ先：本部学生支援課 山形（内線22514）

Contents

特集

- 02 卒業生ネットワーク形成の取り組み
—第2ステージへ—

特集

- 06 東京大学の教育
～「大学教育の達成度調査」からみえてくるもの～

NEWS

一般ニュース

- 19 産学連携本部
増加する契約事務をよりスムーズに
—研究契約事務担当者向け説明会開催—
- 19 本部評価・分析課
第1期中期目標期間の業務の実績に係る評価結果が公表される
- 20 本部留学生・外国人研究者支援課
東京大学外国人留学生特別奨学制度平成23年度4月期研究奨励費受給者証書授与式」を開催

部局ニュース

- 21 大学院新領域創成科学研究科
第2回新領域創成科学研究科「市民講座」開催

キャンパスニュース

- 22 本部学務課
平成23年5月1日現在学生数
—学部学生14,128人、大学院学生13,894人、研究生等669人—

コラム

- 24 救援・復興支援室より No.1
- 25 決算のDOOR ～数字が語る東京大学 第9回
- 25 インタープリターズバイブル vol.47
- 26 Crossroad 産学連携本部だより vol.67
- 27 Policy + alt vol.21
- 28 ASIAN DIVERSITY No.8
- 28 PCリユースのわ 第20回
- 29 Relay Column「ワタシのオシゴト」 第64回
- 29 コミュニケーションセンターだより No.77

INFORMATION

シンポジウム・講演会

- 31 生産技術研究所
「イノベーション基盤シミュレーションソフトウェアの研究開発」プロジェクト第3回シンポジウム開催のお知らせ

募集

- 31 環境安全本部
本学の喫煙対策について

◆表紙写真◆

五月祭での和太鼓演奏（演奏者：和太鼓グループ彩）
【38ページに関連記事】

お知らせ

- 32 生産技術研究所
集まれ！ 発明王
第9回東京大学学生発明コンテスト
- 33 大学院総合文化研究科・教養学部
「教養学部報」第539(6月8日)号の発行
—教員による、学生のための学内新聞—
- 33 情報基盤センター
「文献検索早わかり」ほか“情報探索ガイダンス”各種コース実施のお知らせ
- 35 本部学生支援課
東京大学音楽部管弦楽団サマーコンサート2011のお知らせ
- 35 大学院総合文化研究科・教養学部
特別展「小石川植物園と植物学の世界」

事務連絡

- 37 人事異動（教員）

巻末特別記事

- 38 第84回五月祭開催

淡青評論

- 40 学問への信頼・社会への信頼

編集後記

今月号より、本格的に学内広報の編集に携わらせていただいております（た）です。昨年9月より本学で勤務をさせていただいています。今回初めて編集の仕事に携わり、改めて日本語の難しさを痛感しました。学内広報を含め、広報という仕事は初めてで、本学のことも知らない事ばかりなので、まだまだとまどってばかりの毎日ですが、頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく願い致します。（た）



七徳堂鬼瓦

学問への信頼・社会への信頼

今回の大震災では、地震予知、津波の予測、そして原発の安全性や放射能汚染のリスク評価など、科学への信頼が根底から揺るがされるような問題が誰の目にも明らかになってしまった。これはまた、現代社会が、いかに学問的知識の基盤をあてにして成り立っているかの証左でもあるといえる。

このことは、じつは自然科学だけの問題ではない。日本の社会保障制度は、30年以上にわたって持続可能性問題に悩まされているが、その大本の原因は、当初の制度設計の誤りと経済と人口に関する予測の甘さである。あるいは、バブル崩壊以後、日本の経済社会は名目GDP成長率がほぼゼロという失われた20年に苦しめられている。そこには経済・金融政策上の大きな誤りがあるのだが、学問世界がそれを容認ないし放置してきた面も大きい。

社会は信頼から成り立っている。個々の身近な人たちへの信頼もそうだが、経済取引の相手への信頼、制度や政治への信頼がなければ、われわれの日常生活の根幹が揺らいでしまう。そうした信頼は予測可能性と結びついている。ところが、たとえば今日の年金制度はこのまま持続可能かどうか疑わしい。日本の財政さえも将来不安が指摘されている。これらは、現実の就職難や雇用の不安定さとあいまって、若い世代を中心に、政治や制度への根本的な不信感をもたらしている。このような社会への信頼の弱体化は、今回の原発問題でさらに深まってしまったように思われる。

制度や政策への信頼の喪失や崩壊は、それを支えてきた学問への信頼も揺るがしている。しかし、逆に、新しく信頼を取り戻すために何かをなすのも学問であり科学である。今こそ、経済の低迷や社会保障制度の混乱から脱却するとともに、安全で安定した電力供給や災害対策への展望を切り拓くために、学問世界の奮起が望まれているといえるのではないだろうか。

盛山和夫（大学院人文社会系研究科・文学部）

（淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報室の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報室までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、本部広報課を通じて行ってください。

No.1413 2011年6月22日

東京大学広報室

〒113-8654

東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学本部広報課

TEL：03-3811-3393

e-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

http://www.u-tokyo.ac.jp/